



蔵王町 観光振興基本計画

第二次

春



夏



秋



冬



平成30年3月



世界に名立たる「蔵王」を目指して

私たちのふるさと蔵王町は、とてもすばらしい四季折々の自然や、温泉、スキー場を始め、新鮮な野菜、果樹、蔵王チーズなどの豊富な食材があります。なかでも蔵王国定公園の「蔵王山」と「蔵王の樹氷」は、国の観光資源調査（平成22年度）で「A級」に評価されており、清水寺（京都）や中尊寺（岩手）、松島などと肩を並べる全国第一級の資源であります。

私たちは、蔵王が持つ自然の恵み自然の豊かさを活かし、これからの時代にふさわしい新たな雇用・安定した雇用を生み出す町の実現に向け、蔵王町の資源を愛し誇りと愛着を持ち、一層の磨きをかけて活用し、若者から高齢者まで得意分野を生かしながら、交流人口の拡大と地域経済の発展を目指した魅力あるまちづくりを進めていくことが重要です。

現在、本格的な人口減少時代が到来し、地方と首都圏の経済格差により人口の一極集中と地方人口の減少が進み、あらゆる産業で後継者や担い手が不足する深刻な問題に直面しています。縮小する地域経済を活性化させるには、観光産業における後継者と担い手の育成を図る必要があります。なぜなら、観光産業は、あらゆる産業への経済効果が期待できる総合産業だからです。

近年、訪れる観光客のニーズが多様化し、家族や友人・知人主体の温泉、体験、グルメや癒しなどを目的とした旅行の増加、さらには訪日外国人観光客の受入れなど、観光に求められるニーズが大きく変化しています。また、平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機に、全国的に観光地間での外国人観光客の誘客競争の激化が予想され、これまで以上に魅了ある観光振興策を進めていかなければなりません。

そこで、今後10年間の観光振興の指針として「観光振興基本計画」を策定しました。これは、第五次蔵王町長期総合計画（平成30年度～39年度）の「観光部門計画」であり、全国「A級」の資源を有効に活用しながら、「世界に名立たる『蔵王』の観光振興まちづくり」を目指すものであります。

計画策定にあたり、町内の様々な職種の方々による「策定チーム会議」や「策定検討委員会」において、ご意見を頂きながらまとめ上げることができました。策定に携わられました皆様に心から厚く御礼を申し上げます。

今後は、この計画内容を多くの町民の方々に理解していただき、町民一人ひとりが町に誇りと愛着を持って、蔵王町の観光振興の主役となり観光客をもてなすまちづくりを進めてまいりますので、町民の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

平成30年3月

蔵王町長 村上英人

目 次

序 章	計画策定にあたって	1
1	計画の趣旨	1
2	計画の位置づけと構成	1
2-1	計画の位置づけ	1
2-2	計画の構成	1
3	計画の期間	2
第1章	蔵王町の観光の現状と特性	3
1	観光の現状と取り巻く社会情勢の変化	3
1-1	観光需要に影響を与える人口構造の変化	3
1-2	観光のニーズや形態の多様化	4
1-3	インバウンドの拡大	5
1-4	観光情報・手続きにおける ICT の普及	7
1-5	東日本大震災からの復興	9
2	蔵王町の観光の現状	10
2-1	蔵王町の観光入込の特性	10
2-2	蔵王町の観光資源・施設	18
第2章	蔵王町の観光の課題	23
1	蔵王町の観光の強み・弱み	23
2	蔵王町の観光の課題	27
第3章	観光振興に向けた理念と目標	29
1	観光振興の基本理念と目標像	29
2	観光振興の目標値	31
3	目標を達成した場合の経済効果	32
3-1	経済波及効果	32
3-2	経済効果	34
第4章	観光の基本方針	35
施策1	知名度を生かした観光まちづくりの強化	35
施策2	受入れ体制の整備	37
施策3	戦略的な観光情報の発信	39
施策4	観光振興推進体制の整備	40

第5章 観光振興の基本計画 42

基本方針1	知名度を生かした観光まちづくりの強化	42
基本方針2	受入れ体制の整備	45
基本方針3	戦略的な観光情報の発信	49
基本方針4	観光振興推進体制の整備	51

第6章 計画の推進体制 52

1	役割分担	52
2	推進体制の整備	53

資料編

序 章 計画策定にあたって

① 計画の趣旨

蔵王町は、蔵王連峰の御釜や三階滝、樹氷など大自然が生みだした観光資源や、蔵王高原の自然を生かしたレジャー施設、果物や野菜などの新鮮な食材、開湯400余年の歴史をもつ遠刈田温泉など、優れた観光資源が豊富に存在し、年間を通した観光イベントにより、毎年多くの観光客が訪れています。

観光客の入込数は、平成元年に230万人（うち宿泊者50万人）でしたが、平成18年は166万人（うち宿泊者37万人）と落込み、平成23年3月に発生した東日本大震災、さらには、平成27年4月の蔵王山の火口周辺警報などを受け、観光客入込数が伸び悩んでいます。また、近年、訪れる観光客も多様化し、旅行の形態も団体旅行から個人旅行へと変わり、訪日外国人観光客の受入れやその整備など観光へのニーズが変化しつつあります。

現在、国では、観光立国の実現に関する目標として、国内観光並びに国際観光の拡大・充実を掲げ、訪日外国人の交流人口の拡大を目標とし、宮城県においても、地方創生総合戦略で地域資源や観光資源を最大限に活用することにより、交流人口の拡大に向けた観光地域づくりを推進するとしています。

平成29年3月に、宮城県大河原地方振興事務所で策定した仙南地域広域観光推進プランにおいて、観光資源の魅力向上と観光客受入態勢の整備拡充等により、観光消費効果の高い県外及び海外からの誘客強化を図り、観光客入込数及び宿泊観光客数の増加を目標に、広域観光周遊ルートの形成や旅館の再生・活性化に取り組むとしています。

本町においても、平成32年に開催される東京オリンピック・パラリンピックを契機に、全国的に観光地間の外国人観光客の誘客競争の激化が予想されることから、これまで以上に魅力ある観光地づくりが求められています。

本町の観光振興を向上させていくため、人と人とのつながりを通じて蔵王町の住民が光り輝き、域外の人々から憧れられるような魅力的な地域づくりと、多様な観光資源それぞれの特性に十分配慮した一層の磨き上げを進め、広域的な取り組みや戦略的な情報発信を行い、県内外及び外国人観光客を受け入れる、より一層の施策が必要になります。

今後、観光振興の考え方やそれぞれの役割を踏まえた施策・方向性について、関係機関や住民が一体となり、交流人口の拡大と観光による地域経済の活性化を目指すことを目的として、本観光振興基本計画を策定するものです。

② 計画の位置づけと構成

2-1 計画の位置づけ

本計画は第五次蔵王町長期総合計画の「観光部門計画」として位置付けます。

2-2 計画の構成

本計画は「基本方針」と「基本計画」とで構成されており、基本方針では現状を踏まえ、将来を展望しつつ、本町の観光振興の理念とその実現に向けた方針を定めます。

基本計画では、基本方針に基づき、観光客入込数等の数値目標を定め、その実現に必要な主要施策の方向と内容を明らかにします。

③ 計画の期間

本計画の期間は、平成30年度から平成39年度までの10年間とし、目標中間年次を第五次長期総合計画の前期基本計画年度の平成34年度とし、数値目標等の達成状況を検証しながら、必要に応じて短期目標値の見直し等を行い、本計画で描く将来像の実現を図ります。



蔵王のシンボル「御釜」

第1章 蔵王町の観光の現状と特性

① 観光の現状と取り巻く社会情勢の変化

1-1 観光需要に影響を与える人口構造の変化

- 蔵王町の人口は平成2年の14,074人と比べて平成27年現在は12,316人（12%減）、平成42年では10,383人（26%減）となる見通しです。
- 高齢化率は平成2年の17%と比べて平成27年現在は33%、平成42年では41%となる見通しで、宮城県や全国と比べて高い傾向にあります。
- 本町の人口減少・高齢化が進むのと同様に、観光産業従事者も減少・高齢化していくとみられることから、将来は後継者や担い手不足が懸念されます。

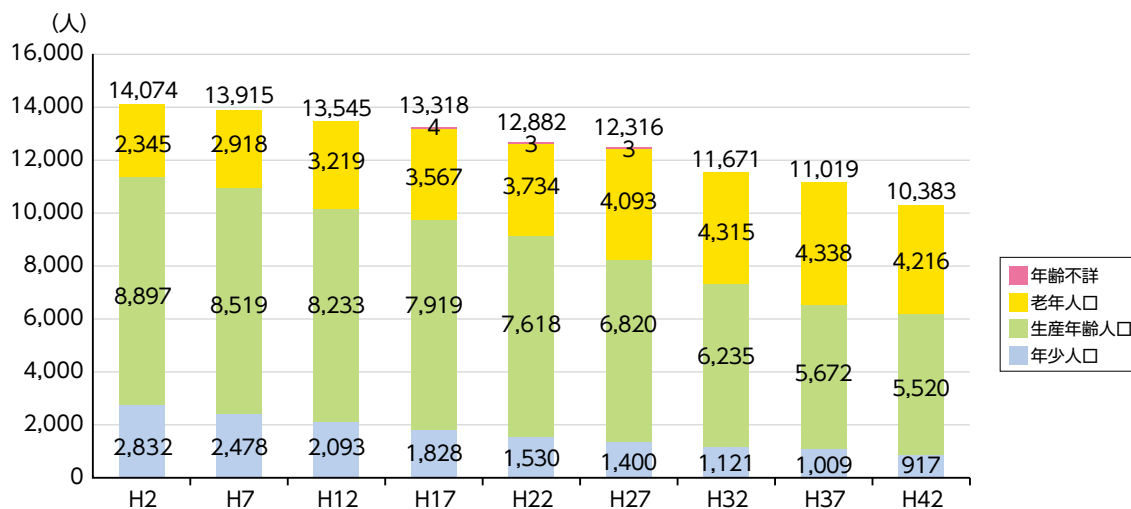


図1 蔵王町の年齢別人口の推移

資料：国立社会保障・人口問題研究所

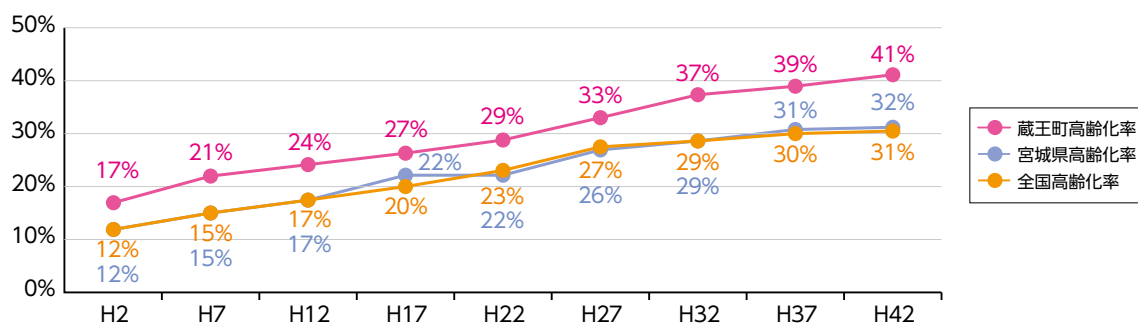


図2 蔵王町・宮城県・全国の高齢化率の比較

資料：国立社会保障・人口問題研究所

1-2 観光のニーズや形態の多様化

- 近年、観光客のニーズや形態は多様化してきており、従来の物見遊山的な観光ではなく、観光客それぞれが行きたい場所、体験したいことに合わせて旅行を手配する傾向に変化してきています。
- それに伴い、近年は自由度の高い個人または家族での旅行が増えています。
- 本町のH29業務で行ったWEBアンケート調査によると、旅行の際に最も利用する交通手段は自家用車が6割を占めており、特に仙台市、東北主要都市圏、中部圏で多くなっています。

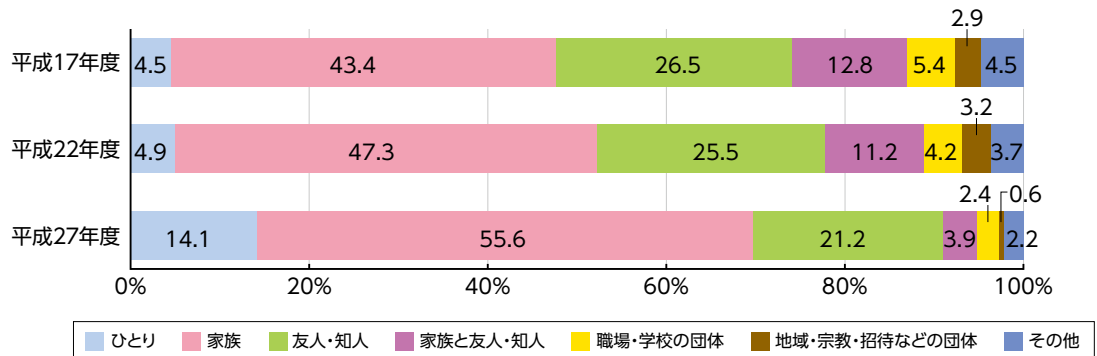


図 3 宿泊観光の同行者の種類（全国）

資料：平成28年度版 観光の実態と志向

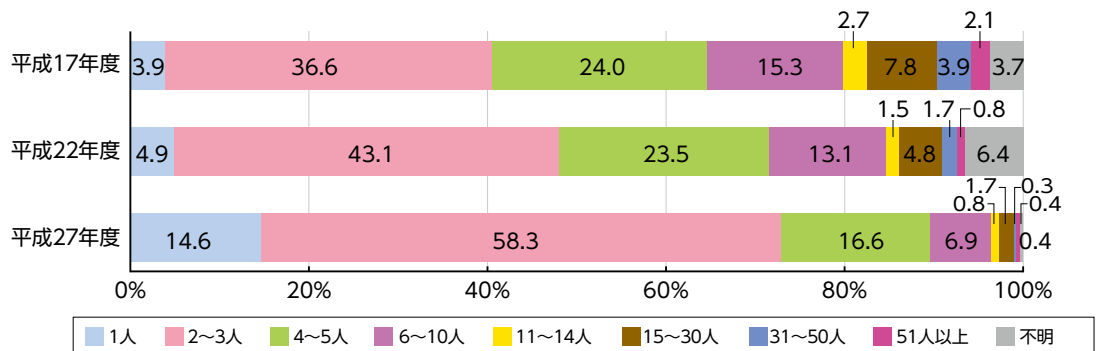


図 4 宿泊観光の同行者の人数（全国）

資料：平成28年度版 観光の実態と志向

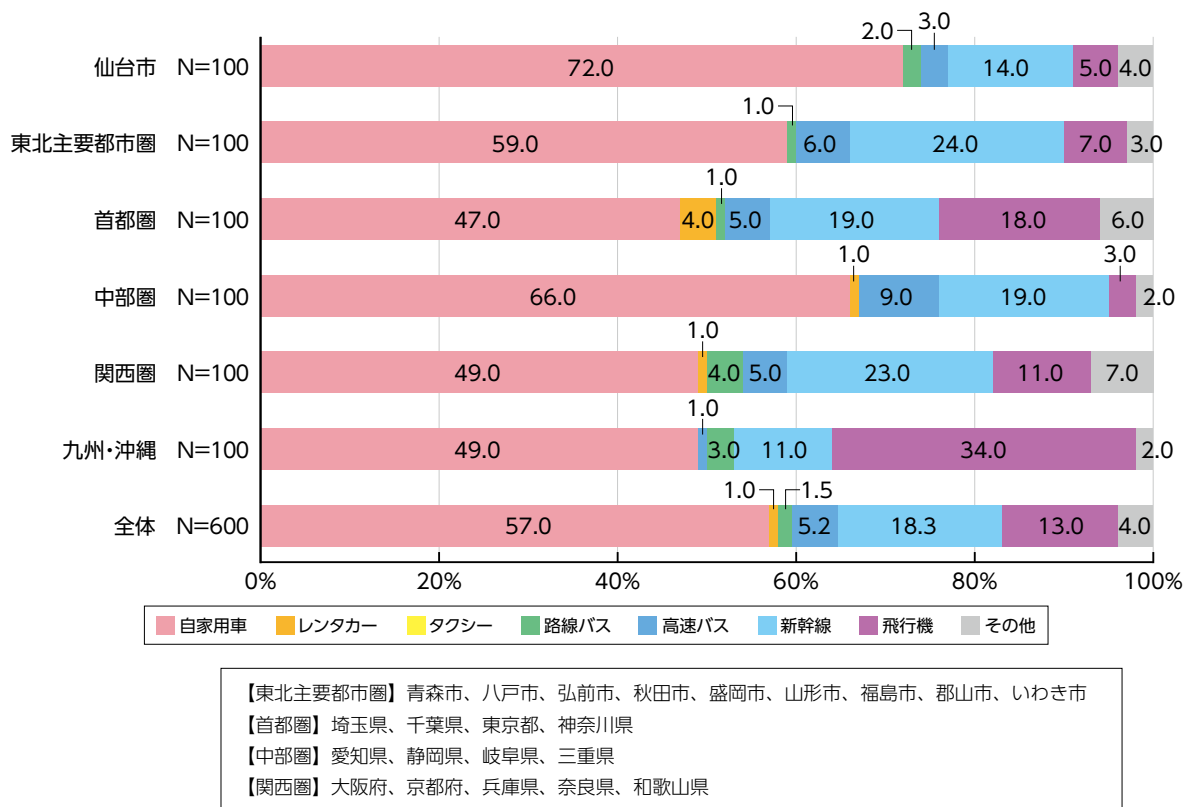


図 5 地域別の旅行の利用交通手段

資料：H29蔵王町観光WEBアンケート調査

1-3 インバウンドの拡大

- 平成28年の訪日外国人旅行者数は、過去最高であった平成27年の1,974万人をさらに上回り、2,404 万人（対前年比21.8%増）となり、4年連続で過去最高を更新しています。

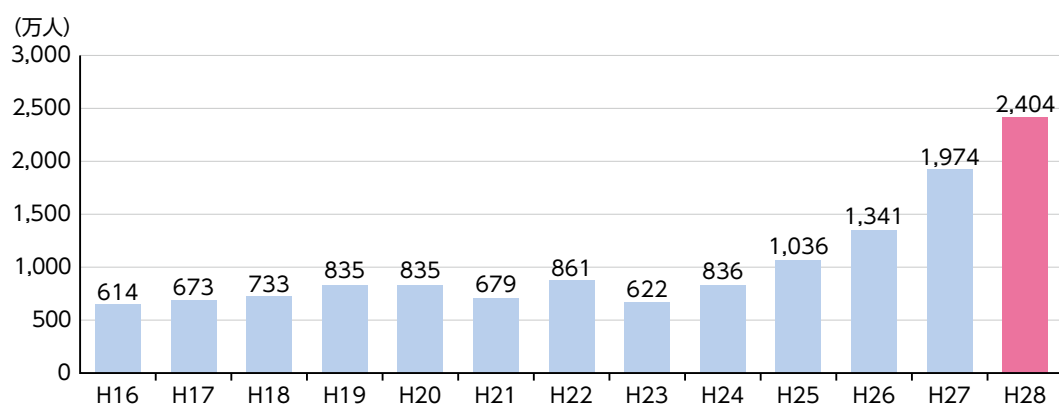


図 6 訪日外国人旅行者数の推移（全国）

資料：H29観光白書（日本政府観光局（JNTO）資料に基づき観光庁作成）

- 東アジア（中国、韓国、台湾、香港）からの訪日外国人旅行者は、1,747万人で72.7%を占めています。
- 中国は、個人旅行やクルーズ船による訪日需要の高まりとともに、航空路線の拡充も相まって訪日外国人旅行者数は637.3万人となり、初めて600万人を超えています。
- 韓国は、509.0万人となり、初めて500万人を超えました。
- 台湾は、LCC（格安航空会社）をはじめとした航空路線の拡充により個人旅行を中心に訪日需要が順調に推移し、訪日外国人旅行者数は416.8万人で初めて400万人を超えました。
- 香港は、航空路線の拡充などにより、年間の訪日旅行者数は183.9万人となりました。

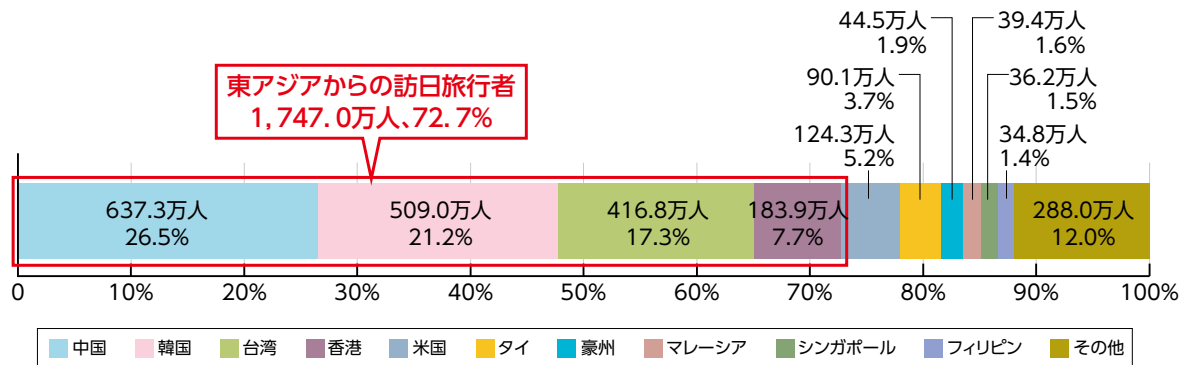


図 7 訪日外国人旅行者の国別内訳（全国）

資料：H29観光白書（日本政府観光局（JNTO）資料に基づき観光庁作成）

1-4 観光情報・手続きにおけるICTの普及

- 近年はスマートフォンやパーソナルコンピュータの普及により、容易に観光情報の収集や旅行の手配を行うことが出来るようになり、旅館の予約に際して、インターネット予約の割合が増加しています。
- しかし、ホームページが観光施設単位のため調べる手間がかかったり、情報の不足によりわかりにくかったりしています。また、多言語化されていないホームページは外国人観光客にとって情報を得る際の障害となります。
- 本町のH29業務で行ったWEBアンケート調査によると、旅行に行く際の情報源としてはどの年代においてもインターネットが最も多くなっており、続いて観光案内ガイドブック、友人・知人の話し合いの順になっています。

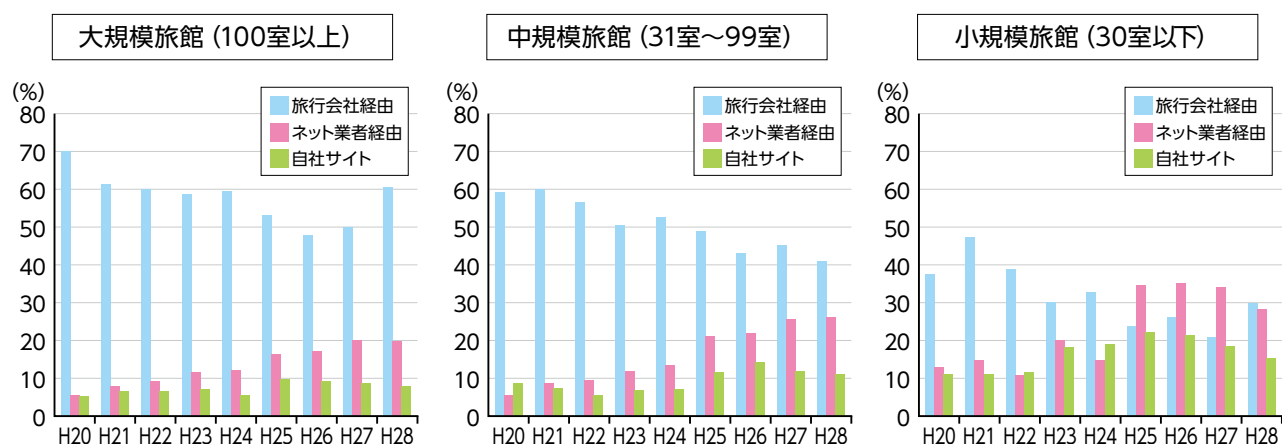


図 8 旅館の予約手段別予約割合

資料：営業状況等統計調査



遠刈田温泉のお宿

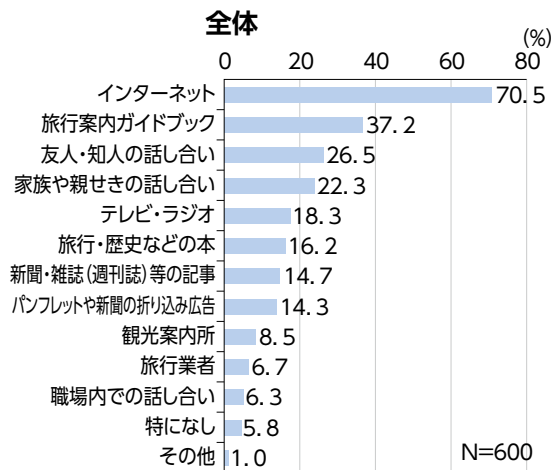
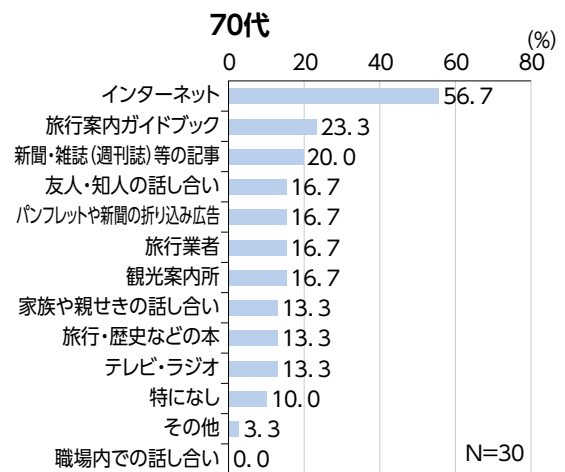
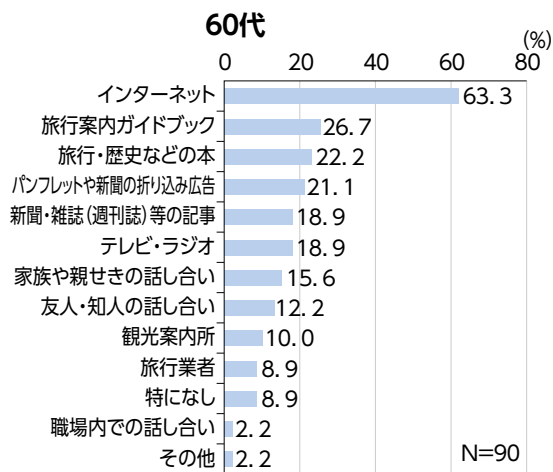
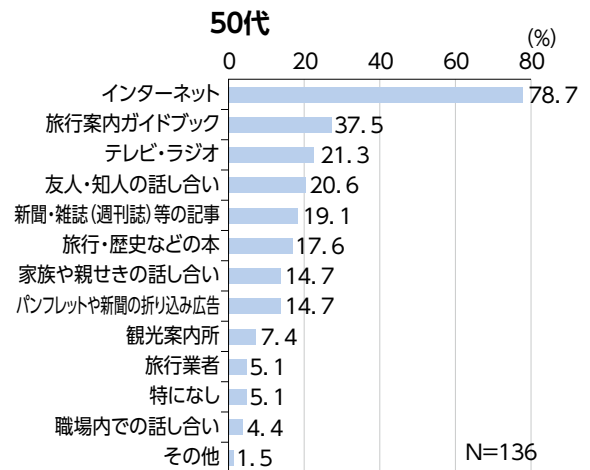
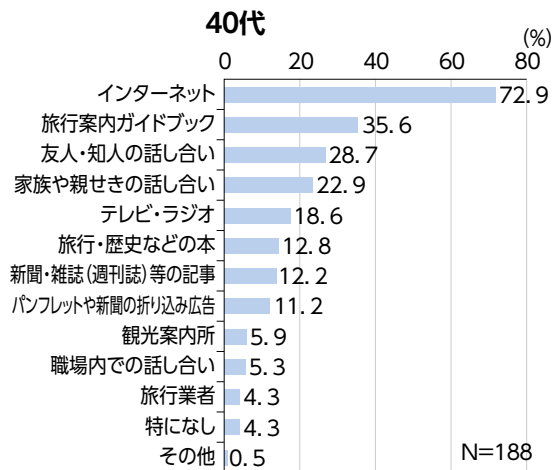
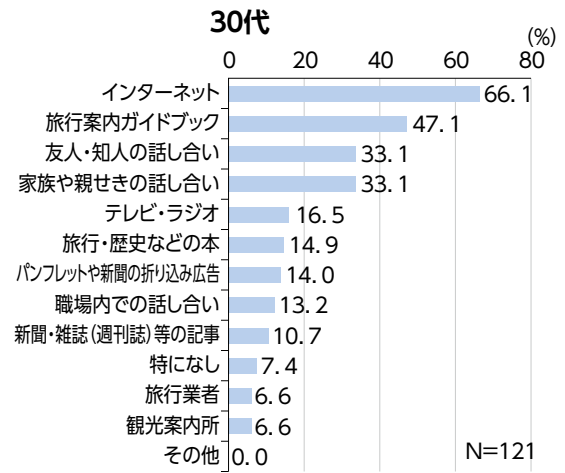
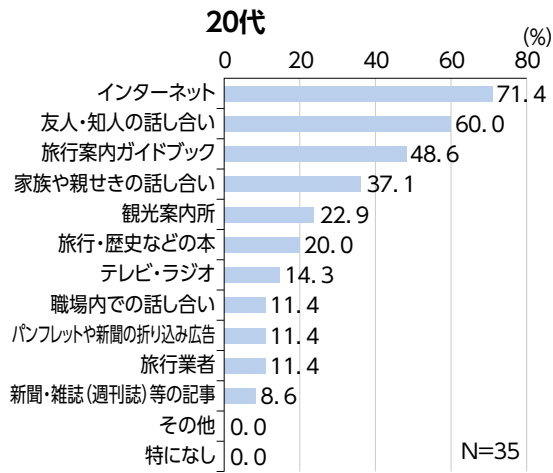


図 9 旅行に行く際の情報源 (複数回答)

資料: H29蔵王町観光WEBアンケート調査

1-5 東日本大震災からの復興

平成23年に発生した東日本大震災により、東北地方は甚大な被害を受け、観光産業については旅行の自粛や風評被害等の影響から、観光客が大幅に減少しましたが、国が平成24年3月に策定した「観光立国推進基本計画」において、東北地方への旅行需要の喚起や風評被害の払拭に向けた取組が行われてきました。さらにインバウンド対策として、東北観光復興対策交付金の創設による観光資源の磨き上げの支援をはじめ、海外への東北プロモーション強化等さまざまな取組が行われており、外国人観光客の客足も徐々に戻りつつあります。

宮城県においては、平成23年10月に策定した「宮城県震災復興計画」における復興のポイントの1つに「多様な魅力を持つみやぎの観光の再生」を掲げ、観光復興に向けた取組を推進することとしており、平成26年3月に策定した「第3期みやぎ観光戦略プラン」、平成29年3月に策定した「仙南地域広域観光推進プラン」により、外国人観光客の回復、東北、宮城県内、仙南地域が一体となった広域観光の充実等に積極的に取り組んできました。

蔵王町は、幸いに人的被害はありませんでしたが、建物被害（全壊・半壊・一部損壊）があり、平成23年観光客入込数は122万人（前年比82.9%）となっていることから、観光業が受けた震災の影響の大きさがうかがえます。

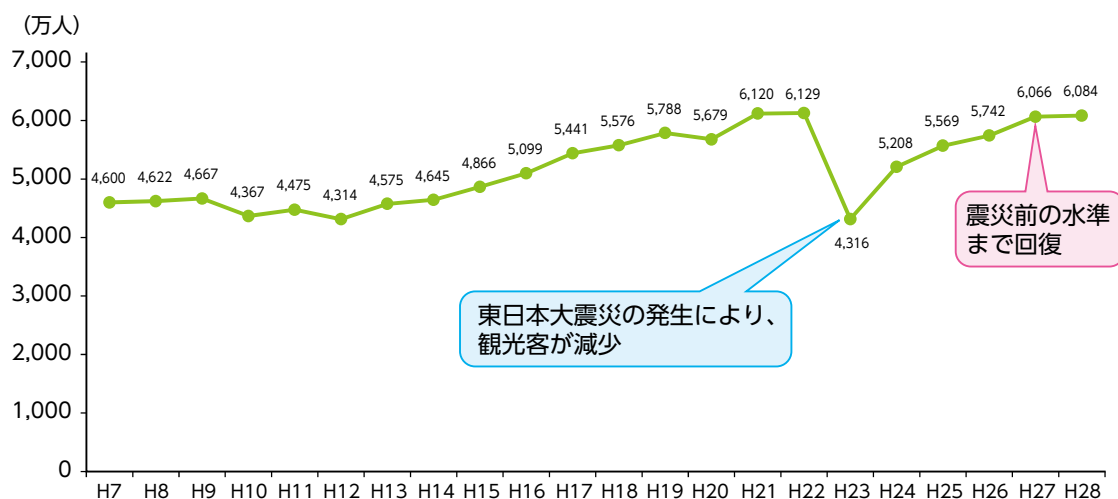


図 10 宮城県の観光客入込数の推移

資料：宮城県観光統計概要

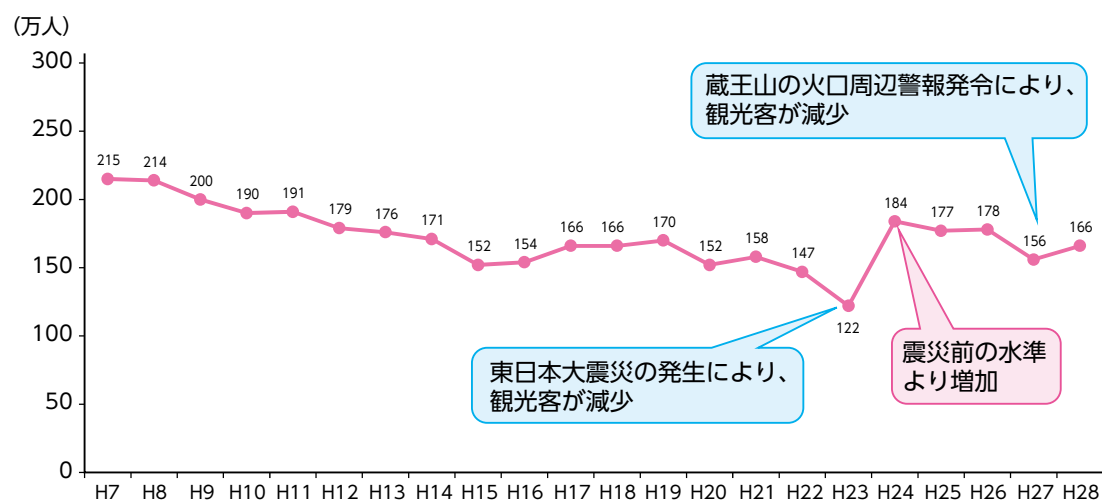


図 11 蔵王町の観光客入込数の推移

資料：宮城県観光統計概要

② 蔵王町の観光の現状

2-1 蔵王町の観光入込の特性

(1) 観光客入込数・宿泊客数

- 平成28年の蔵王町の観光客入込数は約166万人で仙南地域の約3割、宿泊客は約33万人で仙南地域の約7割を占めています。
- しかしここ20年間で観光客は2割、宿泊客は約3割減少しています。
- 一部の宿泊施設は、顧客ニーズの変化（団体⇒個人等）に対応できずに、宿泊客が減少し、経営が悪化していることなどが要因として挙げられます。

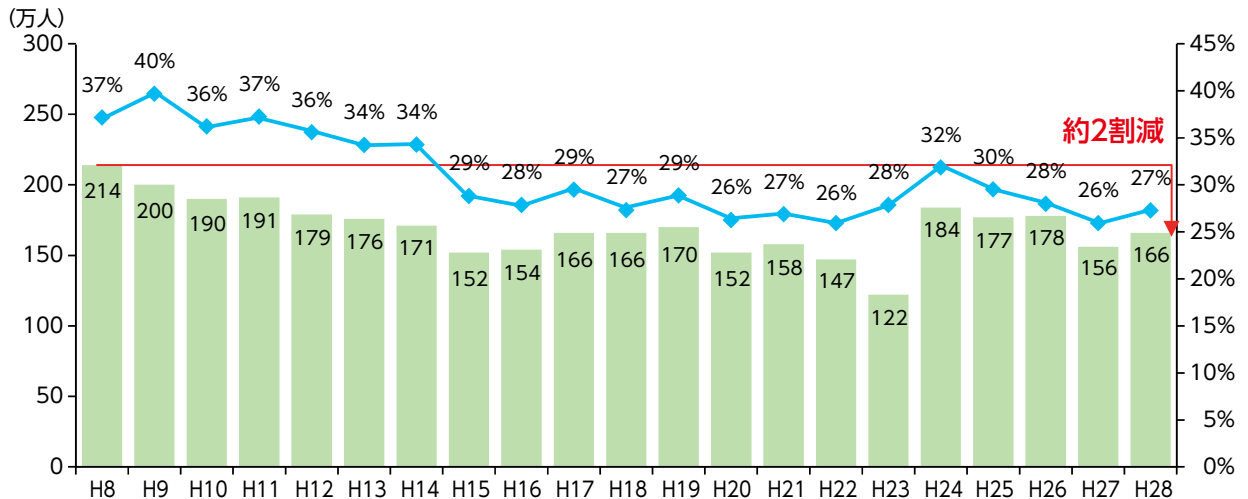


図 12 蔵王町の観光客入込数と仙南地域に占める割合の推移

資料：宮城県観光統計概要

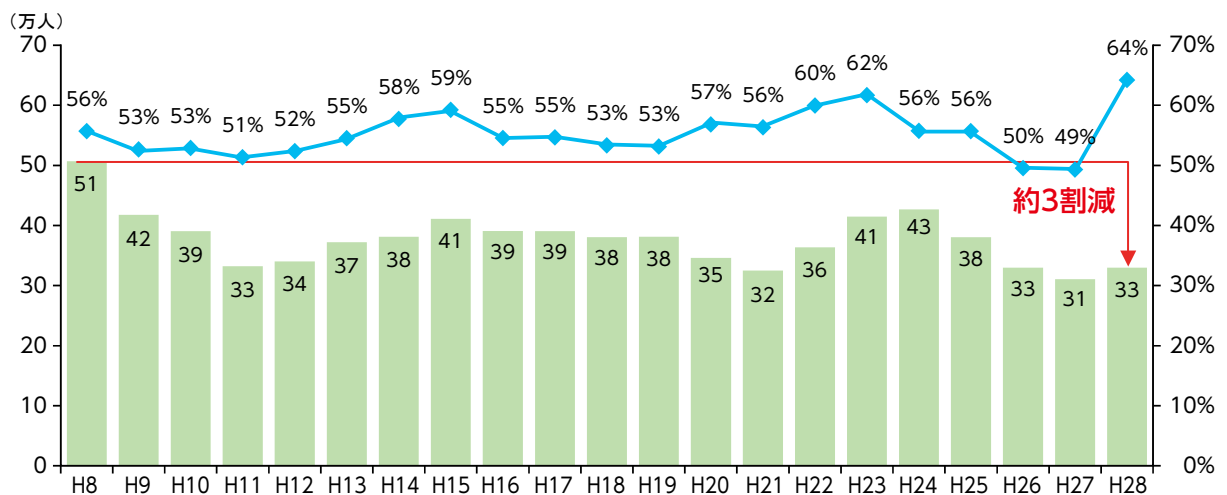


図 13 蔵王町の宿泊客数と仙南地域に占める割合の推移

資料：宮城県観光統計概要

- 平成28年の本町の観光客入込数は1,660,174人となっており、内訳は「遠刈田温泉」が740,897人（44.6%）、「刈田山頂」が359,411人（21.6%）、「みやぎ蔵王えぼしリゾート」が115,910人（7.0%）、「黄金川温泉」が107,161人（6.5%）、「みやぎ蔵王すみかわスノーパーク」が25,671人（1.5%）となっています。

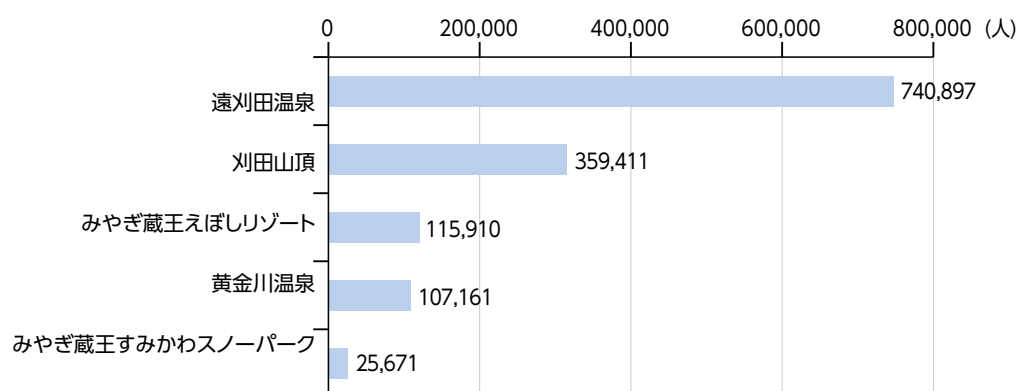


図 14 H28観光客入込数

資料：宮城県観光統計概要



遠刈田温泉



刈田山頂



みやぎ蔵王えぼしリゾート



みやぎ蔵王すみかわスノーパーク



黄金川温泉

(2) 観光客の居住地

- 本町のH29業務で行った観光客アンケート調査によると、町内及び周辺の観光施設に訪れた観光客の傾向として、刈田山頂レストハウスは関東からの観光客が多く、遠刈田温泉、蔵王酪農センター、蔵王ハートランド、みやぎ蔵王こけし館は県内からの観光客が多い傾向となっています。
- 参考までに宮城蔵王キツネ村(白石市)は海外や関東からの観光客が多い状況となっています。

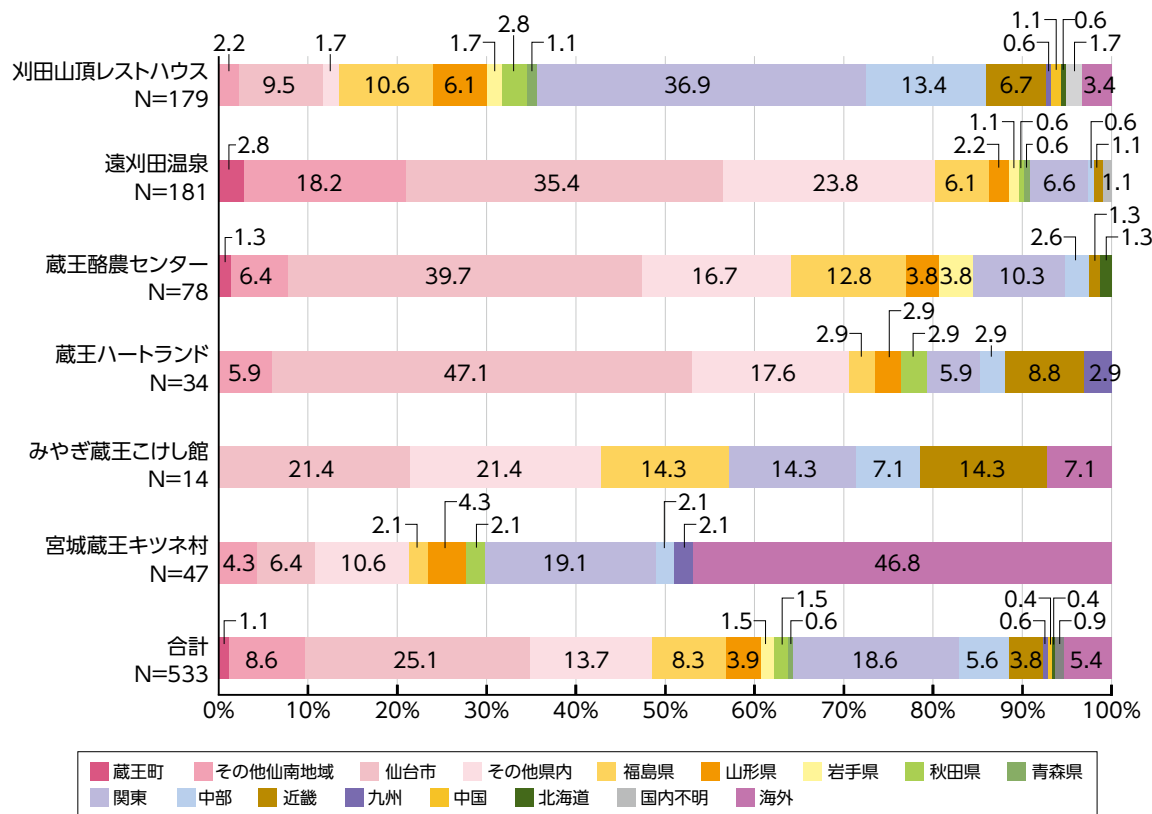


図 15 町内及び周辺を訪れた観光客の居住地

資料：H29蔵王町観光客アンケート調査



刈田山頂レストハウスでの調査風景



蔵王酪農センターでの調査風景

(3) 蔵王町の認知度

- 本町のH29業務で行ったWEBアンケート調査によると、地域別の蔵王町の認知度について、仙台市や東北主要都市圏在住者の多くは宮城県の市町村であることまで知っていますが、中部圏、関西圏、九州・沖縄在住者では認知度は3割未満となっています。
- 首都圏在住者では、山形県だと思っていた人も3割に達しています。
- 東北以外では蔵王町の認知度が低いことが課題となっています。

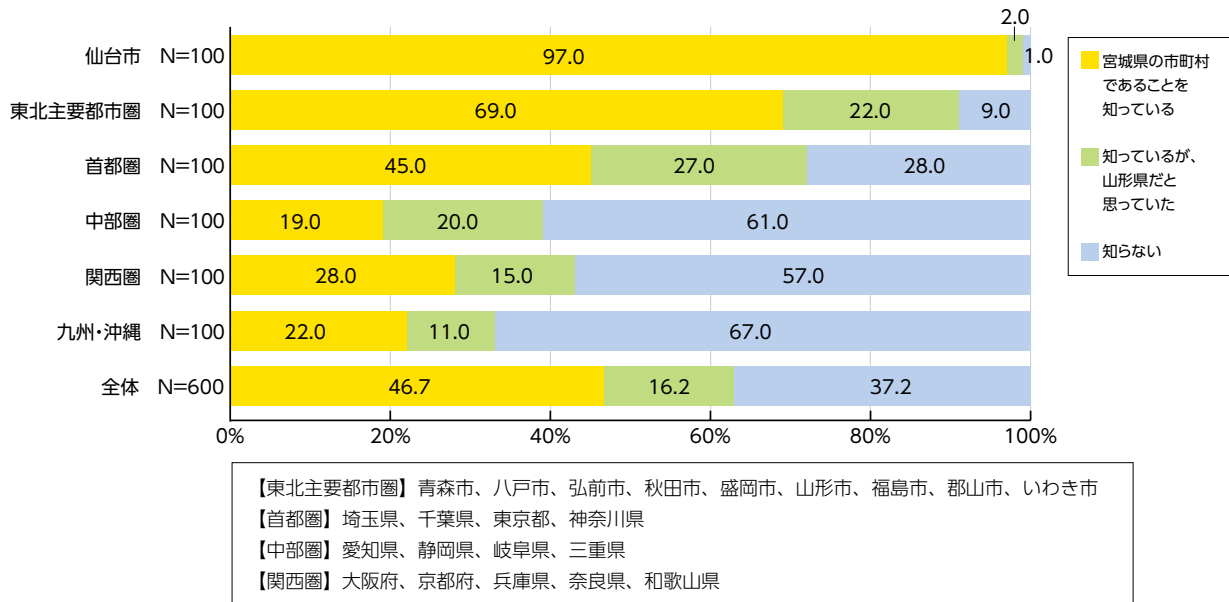


図 16 蔵王町の認知度

資料：H29蔵王町観光WEBアンケート調査

(4) 蔵王町への来訪機会

- 本町のH29業務で行ったWEBアンケート調査によると、地域別の蔵王町への来訪機会について、仙台市在住者は複数回来訪している人が多くいますが、首都圏、中部圏、関西圏、九州・沖縄はリピーターが少ない状況となっています。

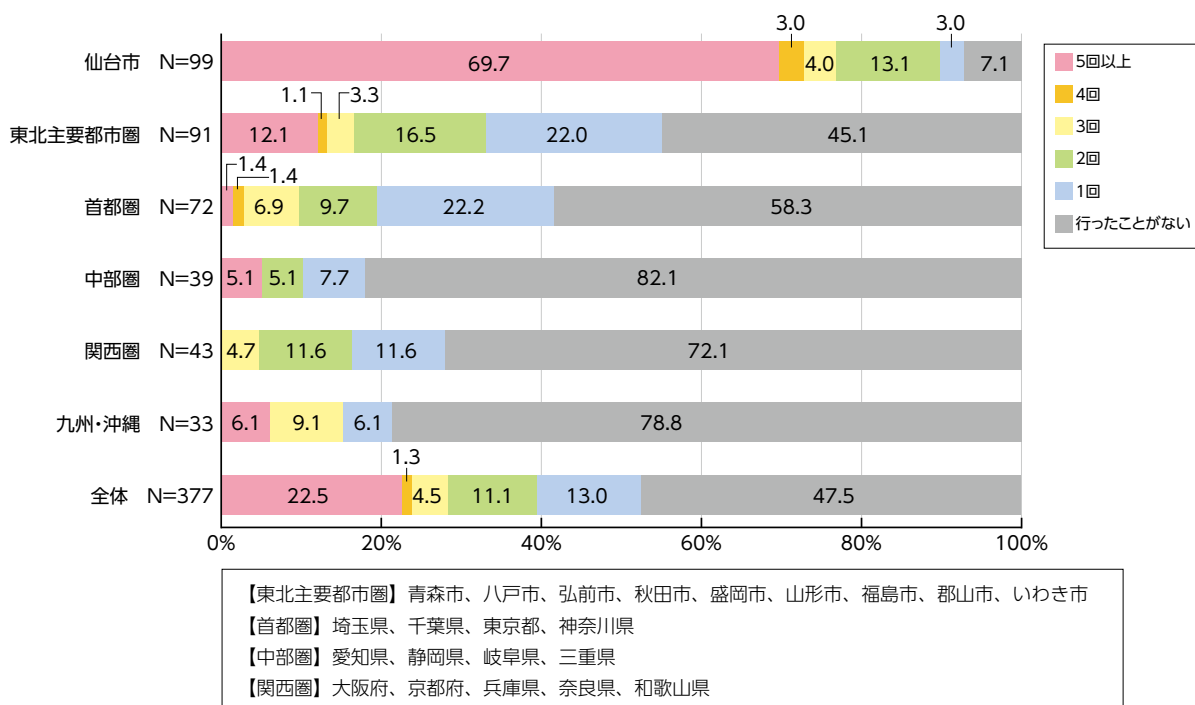


図 17 蔵王町への来訪機会

資料：H29蔵王町観光WEBアンケート調査

(5) 観光客の消費額

- 本町のH29業務で行った観光客アンケート調査によると、町内及び周辺の観光施設に訪れた観光客の消費額は、旅行全体での消費額、蔵王町内での消費額ともに国内観光客より外国人観光客の消費が多くなっています。
- 旅行全体での消費額は、国内日帰り客が1人あたり2,878円、国内宿泊客が1人あたり29,633円（日帰り客の10.3倍）、外国人宿泊客1人あたり186,598円（日帰り客の約64.8倍）となっています。
- 蔵王町での消費額は、国内日帰り客が1人あたり1,727円、国内宿泊客が1人あたり13,763円（日帰り客の8.0倍）、外国人宿泊客1人あたり34,867円（日帰り客の約20.2倍）となっています。
- このことから、国内日帰り客より国内宿泊客、国内宿泊客より外国人宿泊客を誘致することにより町内での消費額を増やすことにつながります。
- 1人あたりの消費額に観光客入込数を乗じた蔵王町内の観光消費額は約70億円となります。

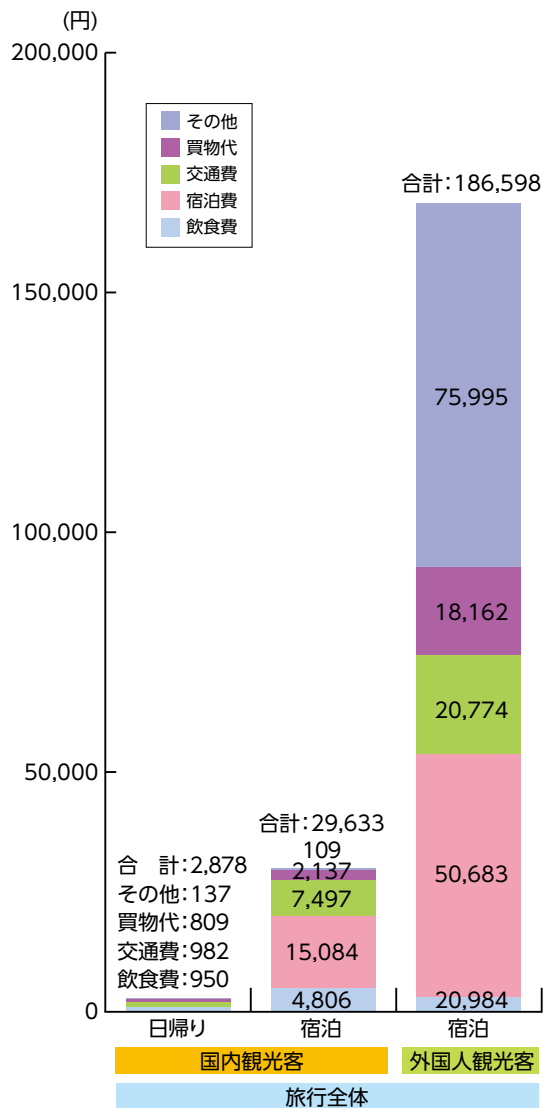


図 18 旅行全体での消費額(1人当たり平均)

資料：H29蔵王町観光客アンケート調査

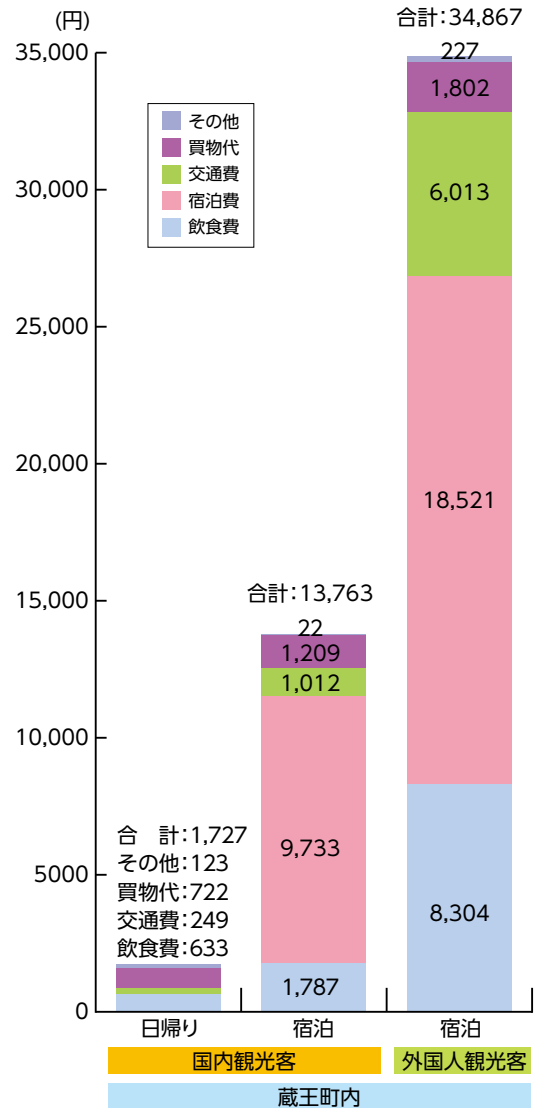


図 19 蔵王町内での消費額(1人当たり平均)

資料：H29蔵王町観光客アンケート調査

表 1 旅行全体及び蔵王町内での消費額（1人当たり平均）

単位：円

			飲食費	宿泊費	交通費	買物代	その他	合 計
旅行全体	国内観光客	日帰り	950	—	982	809	137	2,878
		宿 泊	4,806	15,084	7,497	2,137	109	29,633
	外国人観光客	宿 泊	20,984	50,683	20,774	18,162	75,995	186,598
蔵王町内	国内観光客	日帰り	633	—	249	722	123	1,727
		宿 泊	1,787	9,733	1,012	1,209	22	13,763
	外国人観光客	宿 泊	8,304	18,521	6,013	1,802	227	34,867

表 2 蔵王町内での観光消費額

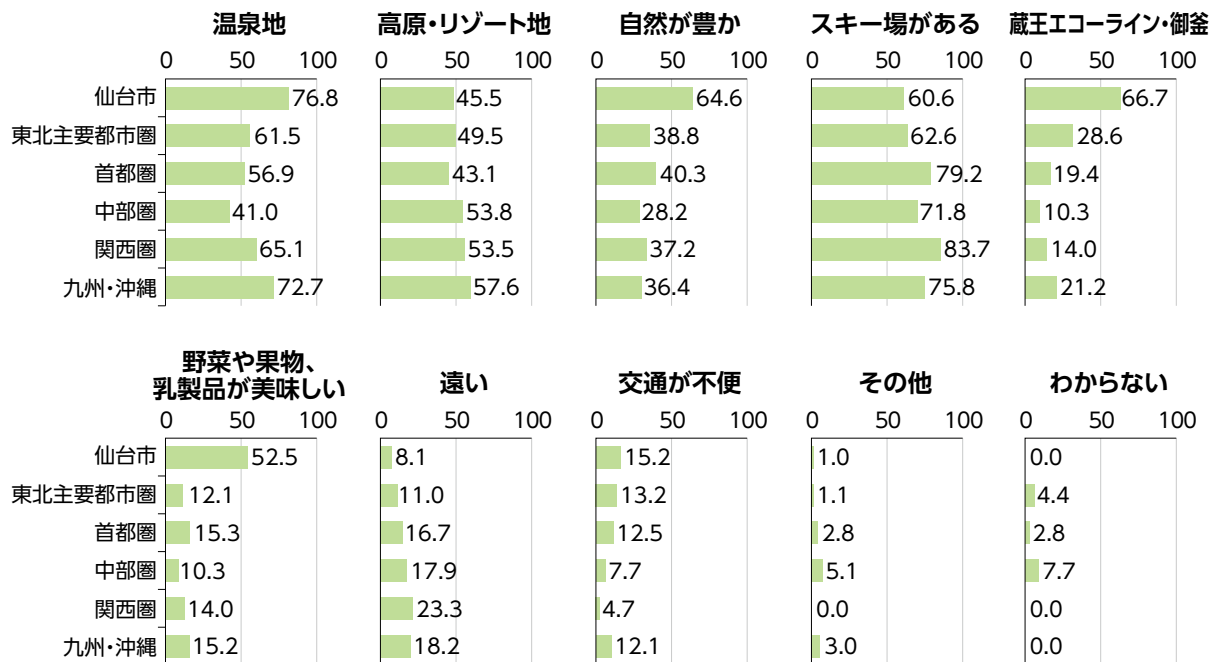
		蔵王町内での 1人当たりの 平均消費額 (A)	H28 観光客入込数 (B)	H28 観光消費額 (A × B)
国内観光客	日帰り	1,727 円	1,323,402 人	22.9 億円
	宿 泊	13,763 円	331,772 人	45.7 億円
外国人観光客	宿 泊	34,867 円	5,000 人	1.7 億円
合 計		—	1,660,174 人	70.3 億円



梨まつりでの買物風景

(6) 蔵王町のイメージ

- 本町のH29業務で行ったWEBアンケート調査によると、地域別の蔵王町のイメージについては、「温泉地」「スキー場がある」とのイメージが強くなっています。
- 仙台市在住者では「自然が豊か」「蔵王エコライン・御釜」など、観光地のイメージがある一方、「交通が不便」とのイメージもあります。
- 中部圏、関西圏、九州・沖縄など遠方の在住者には「高原・リゾート地」とのイメージも強くなっています。



【東北主要都市圏】青森市、八戸市、弘前市、秋田市、盛岡市、山形市、福島市、郡山市、いわき市

【首都圏】埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県

【中部圏】愛知県、静岡県、岐阜県、三重県

【関西圏】大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県

図 20 蔵王町のイメージ

資料：H29蔵王町観光WEBアンケート調査



蔵王高原



蔵王の樹氷



蔵王の湯

(7) 外国人宿泊客数

- 蔵王町の外国人宿泊客数は平成23年の東日本大震災により、一時期低迷しましたが、その後は順調に回復しています。
- 平成27年では4,210人となっており、仙南地域の約5割を占めるものの、全国の伸びと比べると、伸び悩んでいる状況です。

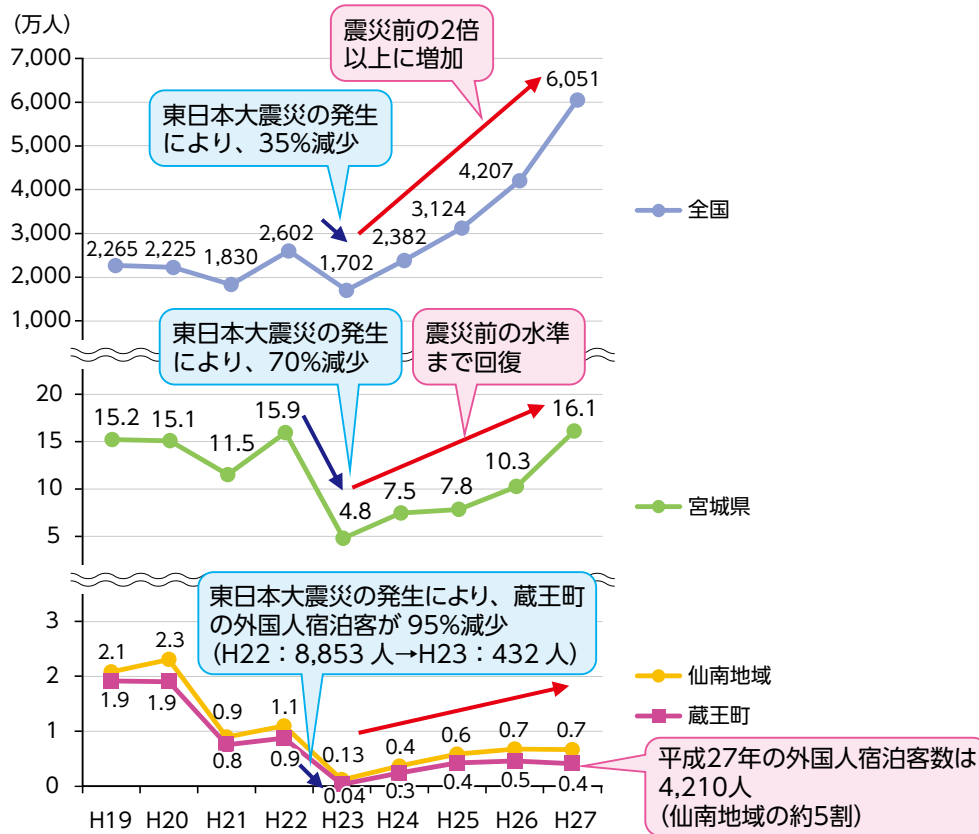


図 21 全国・宮城県・仙南地域・蔵王町における外国人宿泊客数の推移（従業員数10人以上の施設）
（【全国・宮城県】宿泊旅行統計調査、観光庁 【仙南地域】宿泊旅行統計調査を基に宮城県で算出）



外国人観光客の足湯やこけしの給付け体験

2-2 蔵王町の観光資源・施設

(1) 観光資源・レクリエーション施設

- 本町には、国定公園「蔵王」の御釜や蔵王エコーライン沿線の渓谷、樹氷、果樹園風景などに代表される蔵王町ならではの豊かな自然資源や、我妻家住宅、刈田嶺神社、遠刈田伝統こけしなどの歴史資源が豊富です。
- 観光資源データ（平成22年度国土交通省）によると、「蔵王山」と「蔵王の樹氷」の誘致力は全国的で、観光重点地域の原動力として重要な役割をもつ資源（A級）に評価されており、松島や中尊寺と同等の扱いとなっています。
- また、スキー場、ゴルフ場などのレジャー施設や、登山、森林浴、ハイキングなど健康志向に適した広大な森林資源、さらに高原野菜や果樹、蔵王チーズなどの豊富な食材に加え、開湯400余年の歴史をもつ遠刈田温泉など、優れた観光資源を有します。
- 現在、本町では、自然資源や歴史資源を活かし、教育や観光への活用を図る新たな取り組みとして「蔵王ジオパーク構想」を推進し、地域の魅力やすばらしさを知ってもらう活動を行っています。

表 3 観光資源の評価

ランク	観光資源の例	内 容
特 A 級	富士山、出雲大社、法隆寺、十和田湖 等	わが国を代表する資源でかつ世界にも誇示しうるもの。わが国のイメージ構成の基調となりうるもの
A 級	蔵王山、蔵王の樹氷 、松島、瑞巖寺、清水寺、天橋立、中尊寺 等	特 A 級に準じ、その誘致力は全国的で観光重点地域の原動力として重要な役割をもつもの
B 級	駒ヶ岳、仙台城跡、秋保大滝、志波彦神社、鹽竈神社、塩竈みなと祭、多賀城跡、五大堂、観瀾亭、金華山 等	地方スケールの誘致力をもち地方のイメージ構成の基調となりうるもの
C 級	—	主として県民および周辺地域住民の観光利用に供するもの

資料：国土数値情報 観光資源データ 平成22年度 国土交通省

（財）日本交通公社が事務局として設置した「観光資源評価委員会」が検討・選定し作成した「観光資源台帳」（（財）日本交通公社）に掲載されている観光資源のうち評価ランクがB級以上のものをデータ化したもの。

対象とする観光資源の種類

自然資源 山岳、高原、原野、湿原、湖沼、渓谷、滝、河川、海岸、岬、島、岩石・洞窟、動物、植物、自然現象

人文資源 史跡、社寺、城跡・城郭、庭園・公園、歴史景観、地域景観、年中行事、歴史的建築物、現代建造物、博物館・美術館

表 4 蔵王町の主な観光資源

区 分	観 光 資 源
自然資源	蔵王国定公園（蔵王連峰、御釜、名瀑、渓谷、樹氷、芝草平、紅葉・新緑等）、七日原高原、青麻山、みやぎ蔵王三十六景、えぼし千年杉、平沢弥陀の杉、鬼子坂の桜、白山神社杉並木、白石川白鳥飛来地、高山植物、澄川溪流、えぼしのシロヤシオ群生地
祭 り イベント	雪の壁ウォーク、とおがった大道芸、遠刈田温泉仮装盆踊り大会、産業まつり、全国伝統こけしろくろまつり、蔵王高原大根狩り、こけしびなまつり、えぼし雪上花火大会、白鳥神社暁まつり、えぼしすいせん祭り、空中さんぽ de 星空さんぽ、樹氷鑑賞ツアー、TBC杯みやぎ蔵王スキー大会、真冬のイルミネーション、山の日登山、蔵王御山詣り、たっぷり蔵王！キャンペーン、みやぎ蔵王梨まつり、ございん市里いもまつり・蔵王はるか祭、遠刈田温泉朝市、日本の蔵王ヒルクライム、東北シクロクロスZAOラウンド、三遊亭円楽杯ゲートボール交流大会&落語の集い
観光レクリエーション施設	みやぎ蔵王えぼしリゾート、みやぎ蔵王すみかわスノーパーク、みやぎ蔵王カントリークラブ、みやぎ蔵王こけし館、蔵王ハートランド、共同浴場「神の湯」「壽の湯」、遠刈田公園、岩崎山金窟社、自由ヶ丘公園遊歩道、青麻山遊歩道、遠刈田温泉散策路、こけし橋、新地こけし集落、とんがり山パラグライダー、観光果樹園、蔵王ブルーベリーファーム、産直市場「みんな野」「蔵王夢づくり」「四季菜果」、沿道の農産物直売所
歴史的施設 文化的施設	我妻家住宅、刈田嶺神社（宮）、蔵王刈田嶺神社（遠刈田）、ことりはうす、蔵王自然の家、丈六阿弥陀如来坐像、小野さつき訓導遺徳顕彰館、澄川用水、疣岩分水工、矢附真田の郷歴史公園
体験メニュー	こけしの絵付け、陶芸、蔵王のフルーツ染め、バードウォッチング、植物観察、樹氷めぐり、バックカントリースキー、山岳トレッキング、蔵王名水と温泉巡り、酪農体験、果物と野菜の収穫体験、蔵王農楽校、歴史体験、マウンテンバイク、パラグライダー、乗馬、スノーシュー、テレマークスキー、コカ・コーラボトラーズジャパン蔵王工場見学
温泉資源	遠刈田温泉、鎌倉温泉、黄金川温泉、温泉付別荘地
スポーツ施設	総合運動公園（野球場、テニスコート、多目的広場、グラウンドゴルフ場、ゲートボール場、プール、体育館）、サンスポーツランド蔵王（グラウンド、テニスコート）、遠刈田公園（テニスコート、野外音楽堂）、平沢コミュニティグラウンド、白山公園グラウンド、宮運動広場、勤労者体育館、宮小学校相撲場
代表的食材	米、梨、桃、梅、りんご、ブルーベリー、すもも、西洋梨、キウイフルーツ、つるむらさき、里芋、そらまめ、いちご、大根、きゅうり、いちじく、うど、生しいたけ、鶏卵、生乳、牛肉、蔵王爽清牛、豚肉、イワナ、蔵王チーズ、うーめん、とうふ、チーズドリンク、山菜・きのこ、ハーブ類

自然・景観

蔵王連峰御釜、三階滝、不動滝など



美しい資源があるものの、
アクセスと情報提供が
課題



温泉・宿泊

遠刈田温泉、鎌倉温泉、黄金川温泉など



遠刈田温泉は近年、宿泊客数が減少傾向ではあるが、県内の温泉宿泊施設では、秋保温泉、鳴子温泉に次いで3番目の宿泊者数



リゾート・別荘地



レジャー

みやぎ蔵王えぼしリゾート、
みやぎ蔵王すみかわスノーパーク



体験・レクリエーション

蔵王ハートランド、
蔵王酪農センター(チーズ工場)



体験メニューはあるものの、
あまり知られていない

文化・歴史

みやぎ蔵王こけし館、
我妻家住宅



図 22 蔵王町の観光資源

(2) 宿泊施設

- 遠刈田温泉、鎌倉温泉等の温泉郷に加え、旅館やホテル、ペンションも豊富にあり、リゾート志向やアットホーム志向等、多様なニーズに対応可能な施設はそろっていますが、近年、宿泊客数は低迷しています。

(3) 交通資源

- 仙台～蔵王町的高速バス、白石蔵王駅～蔵王刈田山頂の路線バスはありますが本数が少ないほか、地域内を回る公共交通が不足しています。
- タクシー、レンタカー、レンタルサイクル等の活用も進まない状況です。

表 5 蔵王町への運行路線等

路 線	運行主体	起終点	主な経由地	運行日	便／日 (往・復)	運賃 (円)
白石 遠刈田線	(株)ミヤコーバス	白石蔵王駅～ 宮城蔵王ロイヤル ホテル	蔵王町役場 遠刈田温泉	毎日	平日 (11・9) 休日 (8・8)	940～ 1,040円
		白石蔵王駅～ 蔵王刈田山頂	蔵王町役場 遠刈田温泉 宮城蔵王ロイヤルホテル すみかわスノーパーク	4月～11月 土・日・祝	(2・2)	1,920円
大河原 遠刈田線		大河原駅～ 宮城蔵王ロイヤル ホテル	蔵王町役場 遠刈田温泉 宮城蔵王ロイヤルホテル	毎日	平日 (4・4) 休日 (3・3)	1,020円
仙台・ 蔵王町線		県庁市役所～ 宮城蔵王ロイヤル ホテル	蔵王町役場 遠刈田温泉 宮城蔵王ロイヤルホテル	毎日	(10・10)	1,030～ 1,230円

タクシー

- 蔵王観光タクシー
- 駒草観光タクシー

レンタルサイクル

- ゆと森倶楽部
- 宮城蔵王ロイヤルホテル
- 蔵王町B&G海洋センター



(4) 観光地の評価

- 本町のH29業務で行ったWEBアンケート調査によると、蔵王町内の観光施設では「御釜」や「遠刈田温泉」の評価が高くなっています。
- 蔵王町周辺の観光地では、「国営みちのく杜の湖畔公園」の評価が高くなっています。

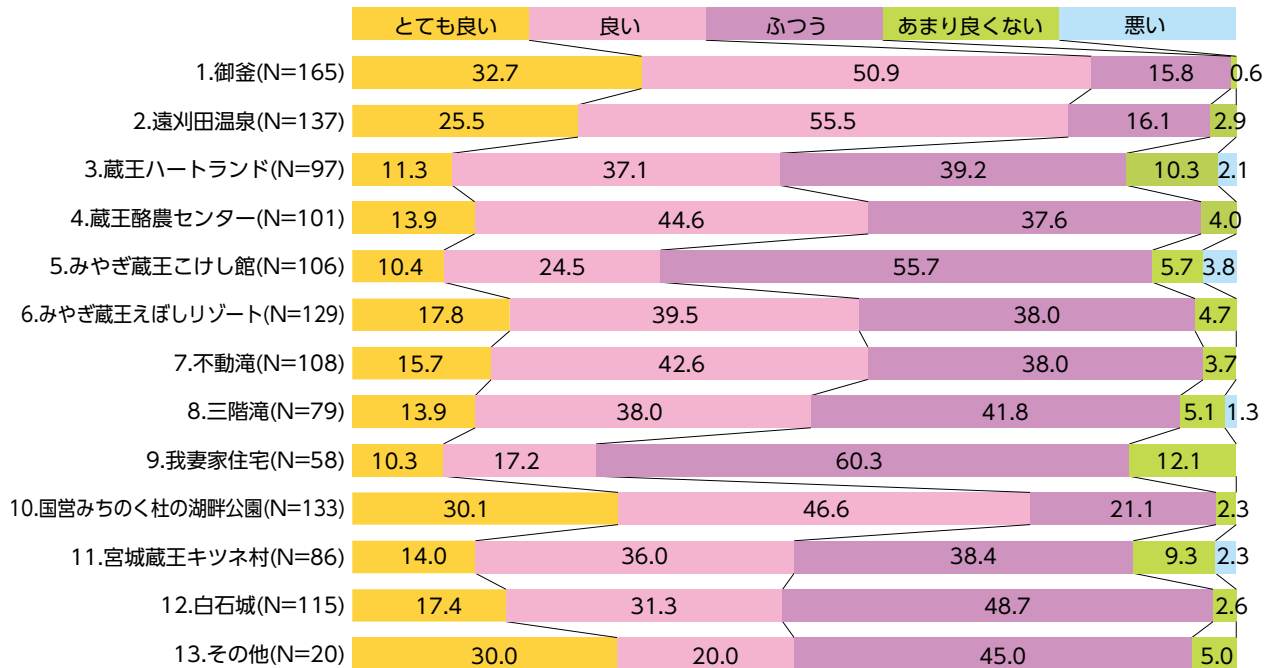


図 23 蔵王町内および周辺観光地の評価

資料：H29蔵王町観光WEBアンケート調査



一番評価が良かった御釜



遠刈田温泉は地元の方にも憩いの場



隣町の川崎町にあるみちのく杜の湖畔公園



蔵王ハートランド



蔵王酪農センター

第2章 蔵王町の観光の課題

① 蔵王町の観光の強み・弱み

蔵王町の観光の現状分析とこれまでの各種会議での意見を踏まえて、蔵王町の観光の内部環境の「強み」と「弱み」、外部環境の「追い風（機会）」と「向かい風（脅威）」を以下に整理しました。これらを組み合わせた展開の方向性を示します。

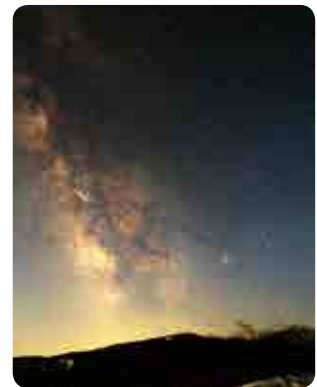
表 6 蔵王町の強み・弱み・追い風（機会）・向かい風（脅威）

強み	● 宮城県観光を支えている重要な観光地である ● 仙南地域の約3割の入込客数を占めている ● 他の町に比べ、観光資源が豊富な町である ● 仙台市、福島市、山形市などの都市が近くにあり、蔵王までのアクセス性はよい ● ミヤコーバスのバスがホテルまで乗り入れている ● とにかく大自然が残っている、自然景観が素晴らしい ● 大きい山があり四季折々の景色など楽しめる ● 高原など何も無い景色が逆に綺麗である ● 自然がある為、野生動物を頻繁に見ることが出来る ● 東京では見られないような季節ごとの満天の星、星空散歩などが体験できる ● 蔵王のシンボルとして御釜がある ● 遠刈田温泉という、温泉や温泉街がある ● 果物も有名で、梨、桃、りんごなど季節ごとに果物がある ● 野菜も生産しており、大根、里芋、雪の下人参、つるむらさきなどたくさんの種類の野菜がある ● 水がとても綺麗で、湧水も水道水もおいしい ● 湧水が出ている場所がとても多い（寶龍権現・恵水不動・水神社・冷泉堂・向山不動尊など） ● 養殖場もたくさんあり、川魚も手に入る ● 伝統産業が盛んで、遠刈田は伝統こけしの発祥の地である ● 蔵王町はイベントも盛んであり、毎月たくさんのイベントや体験できる催しを開催している ● 田舎ならではの柔らかい対応、笑顔がある
弱み	● 宮城県という、松島や秋保で、蔵王は山形をイメージされる ● 仙台と比較され遠いと思われる ● アクセス性が弱い ● 松島や鳴子と比べて、アクセスの説明が出来ない、わかりづらい ● 二次交通がかなり弱い、タクシーしかない ● タクシーが夜の8時半以降は使えないという時間制限がある ● 蔵王火山の活発化により客足が低下している ● 春夏秋冬として、夏のイメージが無い ● 冬は、蔵王エコーラインが閉鎖され、御釜に行くことが出来ない ● 有名な樹氷の骨格となるアオモリトドマツが枯れてきている ● 若者が少なく年寄りが多い ● 人材育成する人もされる人もいない ● 育成する環境や、仕事もない ● 蔵王町で生まれ育った若い人たちが魅力を知らず、無関心である ● 観光に対してのPR不足 ● 今、旬のインスタグラムなどを活用すべき。ツイッターやフェイスブックは盛り上がっていない ● 観光客を一時だけでなく、リピーターとして来て頂けるような仕掛けが無い ● 全国的なインバウンド需要拡大の波に乗れず、外国人観光客の誘客が伸び悩んでいる

追い風 (機会)	● 高齢化と若干の景気回復により、時間と経済的に余裕のある高齢者観光客の増加 ● 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたインバウンド需要の増加 ● 観光立国や地方創生等の国の動き ● 広域観光周遊ルート「日本の奥の院・東北探訪ルート」（国土交通大臣認定）の主な広域観光拠点としての位置づけ ● 常磐自動車道の全線開通 ● (主) 岩沼蔵王線の大師・姥ヶ懐工区トンネル工事による空港アクセスの向上 ● 仙台空港民営化とLCC（格安航空会社）就航路線の拡充
向かい風 (脅威)	● 人口減少や少子化による観光総量の減少、修学旅行等の減少 ● 多様な形態の個人旅行の増加など観光ニーズの変化 ● 周辺の競合観光地との地域間競争の激化 ● 東日本大震災に伴う福島原発事故や蔵王山の火口周辺警報発令による風評被害



滝見台からの滝



空中さんぽde星空さんぽ



蔵王チーズ



こけしの絵付け体験



蔵王町での梨狩り風景



蔵王町の季節のフルーツ

強み・弱み・機会・脅威からの展開の方向性

蔵王町の観光に関する強み、弱み、外部的な機会、外部的な脅威を掛け合わせて課題を解決する施策の方向性を整理しました。

表 7

SWOT分析による課題への対応方針検討

	蔵王町の強み	蔵王町の弱み
外部からの機会	成長課題への対応 ＜積極攻勢＞ 強みによって機会を最大限活用する施策	改善課題への対応 ＜段階的施策＞ 弱みによって機会を極力逃さない施策
外部からの脅威	強化課題への対応 ＜差別化戦略＞ 強みを活かしつつ脅威を回避する施策	改善課題への対応 ＜専守防衛＞ リスクを最小化し脅威を回避する施策

※表中の「…①～×a～」は掛け合わせた要素を示しています

表 8 掛け合わせによる整理項目

蔵王町の強み

- 宮城県観光を支えている重要な観光地である
- 仙南地域の約3割の入込客数を占めている
- 他の町に比べ、観光資源が豊富な町である
- 仙台市、福島市、山形市などの都市が近くにあり、蔵王までのアクセス性はよい
- ミヤコーバスのバスがホテルまで乗り入れている
- とにかく大自然が残っている、自然景観が素晴らしい
- 大きい山があり四季折々の景色など楽しめる
- 高原など何も無い景色が逆に綺麗である
- 自然がある為、野生動物を頻繁に見ることが出来る
- 東京では見られないような季節ごとの満天の星、星空散歩などが体験できる
- 蔵王のシンボルとして御釜がある
- 遠刈田温泉という、温泉や温泉街がある
- 果物も有名で、梨、桃、りんごなど季節ごとに果物がある
- 野菜も生産しており、大根、里芋、雪の下人参、つるむらさきなどたくさんの種類の野菜がある
- 水がとても綺麗で、湧水も水道水もおいしい
- 湧水が出ている場所がとても多い（寶龍権現・恵水不動・水神社・冷泉堂・向山不動尊など）
- 養殖場もたくさんあり、川魚も手に入る
- 伝統産業が盛んで、遠刈田は伝統こけしの発祥の地である
- 蔵王町はイベントも盛んであり、毎月たくさんのイベントや体験できる催しを開催している
- 田舎ならではの柔らかい対応、笑顔がある

外部からの機会

- 高齢化と若干の景気回復により、時間と経済的に余裕のある高齢者観光客の増加
- 東京オリンピック・パラリンピックを契機としたインバウンド需要の増加
- 観光立国や地方創生等の国の動き
- 広域観光周遊ルート「日本の奥の院・東北探訪ルート」（国土交通大臣認定）の主な広域観光拠点としての位置づけ
- 常磐自動車道の全線開通
- （主）岩沼蔵王線の大師・姥ヶ懐工区トンネル工事による空港アクセスの向上
- 仙台空港民営化とLCC（格安航空会社）就航路線の拡充

成長課題への対応 ＜積極攻勢＞

- 蔵王町の強みである自然や景観、歴史・文化等の観光地一つひとつを磨き上げて醸成…③⑥⑩×c
- 四季折々の自然の魅力を活かした通年観光メニューの作成・PR…⑦⑧⑨⑩×a
- 県内有数のフルーツ・野菜・水等の新鮮食材を使った昔ながらの郷土料理の統一提供や新たな商品の開発…⑬⑭⑮⑯⑰×c
- 仙台市、福島市、山形市などの近隣都市や周辺市町からのリピーター客の取り込み…④×aef
- 日本の奥の院・東北探訪ルートと連携した外国人向け観光コースの形成…①②×bd
- 星空観賞やこけしの絵付けに続くさらなる体験観光コンテンツの造成…⑩⑯×a
- 温泉や登山、トレッキング、ウィンタースポーツを活かした滞在メニューの提供…⑤⑪⑫×a
- 田舎ならではのおもてなしの心、柔らかい対応による観光客の満足度向上…⑫×ab

外部からの脅威

- 人口減少や少子化による観光総量の減少、修学旅行等の減少
- 多様な形態の個人旅行の増加など観光ニーズの変化
- 周辺の競合観光地との地域間競争の激化
- 東日本大震災に伴う福島原発事故や蔵王山の火口周辺警報の発令による風評被害

強化課題への対応 ＜差別化戦略＞

- 県南4市9町、さらに広域的な誘客力を有する仙台市・山形県・福島県との連携を強化…①②④×bc
- 資源を活かしつつ観光客の嗜好に対応したニューツーリズムの展開…③⑥⑦⑧⑨⑩×ab
- 新幹線アクセスの良さを活かした教育旅行の誘致…④×a
- 季節毎にテーマを持った観光ルートの作成…⑦⑬⑯×b
- 風評被害払拭を目的とした登山家による登山時の緊急対処法勉強会ツアーの開催…⑪×bd
- 体験型観光プログラムの醸成による着地型観光の推進…⑮⑯×bc

蔵王町の弱み

- ① 宮城県というと、松島や秋保で、蔵王は山形をイメージされる
- ② 仙台と比較され遠いと思われる
- ③ アクセス性が弱い
- ④ 松島や鳴子と比べて、アクセスの説明が出来ない、わかりづらい
- ⑤ 二次交通がかなり弱い、タクシーしかない
- ⑥ タクシーが夜の8時半以降は使えないという時間制限がある
- ⑦ 蔵王火山の活発化により客足が低下している
- ⑧ 春夏秋冬として、夏のイメージが無い
- ⑨ 冬は、蔵王エコーラインが閉鎖され、御釜に行くことが出来ない
- ⑩ 有名な樹氷の骨格となるアオモリトドマツが枯れてきている
- ⑪ 若者が少なく年寄りが多い
- ⑫ 人材育成する人もされる人もいない
- ⑬ 育成する環境や、仕事もない
- ⑭ 蔵王町で生まれ育った若い人たちが魅力を知らず、無関心である
- ⑮ 観光に対してのPR不足
- ⑯ 今、旬のインスタグラムなどを活用するべき。ツイッターやフェイスブックは盛り上がっていない
- ⑰ 観光客を一時だけでなく、リピーターとして来て頂けるような仕掛けが無い
- ⑱ 全国的なインバウンド需要拡大の波に乗れず、外国人観光客の誘客が伸び悩んでいる

改善課題への対応 <段階的施策>

- 蔵王町の観光地のブランド化と PR…①⑦⑮⑱×ab
- 地域内周遊交通の整備と交通アクセスの案内強化…②③④⑤⑥×abfg
- 地域内の周遊を促す共通パスなどの仕組みづくり…③④⑤×a
- 観光ルートや交通手段を示したパンフレットの作成・配布…②③④⑤⑥×abfg
- 四季折々の自然の魅力を活かした通年観光メニューの作成・PR…⑧⑨×a
- 自然環境の保全・樹木の植栽による自然資源の維持…⑩×c
- ターゲットを明確にした旅行商品の造成と PR…⑰⑱×a
- 無線 LAN 環境や多言語案内・観光情報サイトの整備…⑱×bg

改善課題への対応 <専守防衛>

- 観光施設の整備点検、観光客等の避難誘導訓練の実施及び安全性 PR…⑦×d
- 質の高いおもてなしを実践できる人材育成…⑪⑫⑬×abc
- 観光ガイドの育成…⑪⑫⑬×abc
- 勉強会・研修会の開催による町民全体の意識改革…⑫⑬⑭×abc
- 既存観光振興組織の整備・体制の強化…⑫⑬⑮×ac
- 地域の観光情報のデータベース化とICT（情報通信技術）を活用した情報提供…⑮⑱×b
- トレンドを掴む最新SNSを活用した情報発信…⑱×b

② 蔵王町の観光の課題

現状分析より、蔵王町の観光の課題を以下に整理しました。

1 蔵王町のブランド化とPR

- 蔵王町は仙南地域の観光客入込数の3割、宿泊客数の7割を占め、広域の誘客力を有する蔵王連峰の御釜や遠刈田温泉が広域観光を実質的に牽引しています。
- 一方、一般には「蔵王＝山形蔵王」のイメージが強く、山形側は「蔵王温泉」として毎年、多くの観光客が訪れています。
- 観光地のブランド力向上と蔵王の特産品(水、果物、牛乳、牛肉、蔵王爽清牛、豚肉、鶏卵、野菜等)を活用した食の開発が必要です。



2 宿泊の魅力向上と滞在性が高い観光メニューの提供

- 蔵王町は、仙台市や福島市、山形市などからのアクセス性が良く、日帰り観光が可能な位置にあり、宿泊は夜の魅力の高い仙台市や飯坂温泉、蔵王温泉や上山温泉など周辺の温泉宿泊観光地に泊まる観光客もいると考えられます。
- 宿泊施設や観光施設の顧客ニーズに対応した魅力向上と滞在性の高い観光メニューの提供が必要です。



鎌倉温泉

3 地域内の周遊を促す情報や公共交通ネットワークの整備

- インターネット等による観光情報の提供は個々の観光地で別々に行われており、体系的な情報収集が困難な状況です。
- 蔵王町は仙台空港、東北新幹線白石蔵王駅、東北道村田IC及び白石ICが周辺にあり、レンタカー利用によるアクセス性は良いですが、公共交通を利用した町内の観光施設の周遊は困難な状況です。
- 個人観光客や外国人観光客が活発かつ円滑に周遊するため、ICT（情報通信技術）を活用した体系的な情報提供や観光サインの整備、利用しやすい交通ネットワークの構築が必要となっています。



仙台⇄蔵王町間をつなぐ高速バス



白石蔵王駅からの路線バス



町民の足となる蔵王町民タクシー

4 訪日外国人旅行者へのプロモーションと受入環境整備

- 白石市の宮城蔵王キツネ村は県内でも外国人旅行者に人気の観光施設であり、プロモーションやSNSによる情報の効果が大きいと考えられます。
- 今後は、外国人旅行者の誘客を促進するための、蔵王町の魅力・特性を生かした多彩な観光メニューの造成とプロモーション活動を強化しつつ、案内看板や表示物の多言語化や交通手段の確保など、外国人観光客の受入環境整備が必要です。

5 仙南地域及び近隣市町との連携による広域観光の推進

- テーマや季節、イベントなど、仙南地域や近隣市町の観光地と連携することにより観光誘客の促進を図ることが必要です。

6 観光振興をリードする人材の育成

- 観光地や宿泊施設を客観的に評価し、県外・国外へと売り出していくためには、戦略的な観光地づくりや観光事業の展開を担う人材の育成が必要です。
- 観光従事者や住民が地域全体の特性や魅力を学ぶ機会が必要です。



中学生が修学旅行で蔵王町のPR活動



蔵王町産業まつり



観光キャンペーン

第3章 観光振興に向けた理念と目標

① 観光振興の基本理念と目標像

基本理念

本町における観光振興の目的は、町内にもとより存在する自然、温泉、リゾート、食などの地域資源を磨き上げブランド化を図り、「国内外から多くの観光客が訪れるリゾート地・蔵王町」を育て上げ、様々な媒体により国内外に情報発信し、人を招き交流を広げることによって社会的・経済的効果を高めて地域を活性化することにあります。

蔵王は、日本を象徴する山岳・丘陵の景勝地であり、その四季折々の瑞々しい美しさと魅力が守られ、県内有数の温泉地とそこで提供される、本町で生産された果樹、食肉、乳製品、野菜等の新鮮な食材を活かした食事や体験型観光の充実により、地元の人と観光客とがふれあい、他の観光地では体験することができない温かさや優しさを感じるあり方が、これからの観光地・蔵王の価値観として求められると考えられます。

そのためには、町民一人ひとりが、町の住民であることに誇りと愛着を感じて、蔵王町の観光振興の主役となり、観光客をもてなす「人に優しい、自然に優しいまち」を町民一丸となつてつくり上げていく必要があります。

観光は、他産業への経済波及効果が非常に大きい総合産業であり、農林業、商業等との有機的な結びつきを一層強め、相乗効果を高めていくことが必要です。

また、蔵王が持つ自然の恵み、自然の豊かさを活かしたこれからの時代にふさわしい新たな雇用や、安定した雇用を生み出す町の実現として、地域の「稼ぐ力」や「地域価値」の向上を図り、一定の地域に人と企業が集積することによる「密度の経済」を実現するため、国内観光客、さらには外国人観光客の誘客に取組み、若者から高齢者まで得意分野を生かしながら、交流人口の拡大と地域経済の発展を目指していくことが必要です。

これらのことを踏まえ、将来に向けた本町の観光振興の基本理念を次のとおり定めるものとします。

基本理念

**町民一人ひとりが主役となり、
町に誇りと愛着を持って観光客をもてなす、
世界に名立たる「蔵王」の観光振興まちづくり**

目 標 像

蔵王高原の自然に包まれながら時を忘れ、
気がつけば、私のふるさとみやぎ蔵王

いつ来ても、何度来ても変わらぬ自然と人の笑顔、
やっぱりここが蔵王町

町民一人ひとりが活気に溢れ、
すべての産業がつながり発展する、いきいきと輝く蔵王町



七日原中央幹線の桜並木と蔵王の山々

② 観光振興の目標値

計画中間年の5年後を見据えて施策別に指標と目標値を設定しています。

5年後の中間目標値は第五次蔵王町長期総合計画と整合を図っており、計画最終年（H39）の目標値は、長期的な取組み継続の効果を加味して設定していきます。

表 9 中間年の5年後を見据えた目標値の設定

施策	取組	指 標	単位	現況値 (H28)	目標値 (H34)
施策1 知名度を 生かした 観光まち づくりの 強化	地域資源の再発見と 新たな魅力づくり	観光客入込数	万人/年	166	210
		宿泊観光客数		33	40
	通年観光強化と滞在型 リゾートの促進	観光客入込数	万人/年	166	210
		宿泊観光客数		33	40
	観光と農林業、 地場産業との連携	物産イベントの出展数	回/年	5	7
	観光振興のための 景観形成と保全	植栽等による名所づくり	箇所	0	1
施策2 受入れ 体制の 整備	観光施設等の整備	多言語案内標識の整備箇所数	箇所	0	3
	地域公共交通と連携した域内 周遊交通ネットワークの整備	レンタルサイクルの導入	台	0	10
	広域連携・広域観光の推進	広域周遊観光モデルコースの整備	件	0	5
	人に優しい安全・安心な 観光地の整備	避難誘導等訓練の実施	回/年	0	1
	観光ガイドの育成	観光ガイド研修会の開催	回/年	3	3
	町民によるおもてなし 意識の醸成	おもてなし研修会の開催	回/年	0	2
	インバウンド（訪日外国人 観光客）受入れ体制の整備	翻訳タブレットの設置箇所数	箇所	0	4
施策3 戦略的な 観光情報 の発信	積極的な観光宣伝・PR・ 情報発信	観光客入込数	万人/年	166	210
		宿泊観光客数		33	40
		外国人宿泊者数	人/年	5,000	10,000
	教育旅行の積極的誘致	教育旅行受入人数	人/年	250	500
	インバウンド（訪日外国人 観光客）の誘致促進	外国人宿泊者数	人/年	5,000	10,000
施策4 観光振興 推進体制 の整備	観光振興推進組織の整備・ 強化	観光案内ホームページアクセス数	万件/年	87	95
		観光物産協会組織強化の支援		継続中	継続
	観光事業者間の連携強化	新たな観光商品造成数	件	1	5
	観光統計の整備	観光客意向調査の実施	回	0	2
		観光データの収集・分析		0	2

③ 目標を達成した場合の経済効果

3-1 経済波及効果

宮城県の産業連関表を基に蔵王町版の経済波及効果分析ツールを作成し、平成28年において、蔵王町を訪れた観光客が蔵王町内及び宮城県全体に与えた経済波及効果（金額）を算定すると、蔵王町内に26.1億円、宮城県全体に73.8億円と算出されます。

将来（平成34年）の観光客数が本計画で掲げる目標値まで増加した場合、蔵王町内への経済波及効果は32.0億円（5.9億円増）、宮城県全体への経済効果は90.6億円（16.8億円増）に増加すると見込まれることから、地域経済活性化のためには、より多くの観光客を誘客する必要があります。

また、蔵王町内及び宮城県全体への経済波及効果（増額分）を産業別にみると、蔵王町内は宮城県全体と比べてサービス業及び農業への波及の割合が大きいことから、農業と観光産業等サービス業の連携や、地元食材の積極的な活用が必要となります。

なお、観光客1人あたりの経済波及効果は、日帰り客より宿泊客、国内観光客より外国人観光客の方が高いことから、広域からの宿泊客の誘客強化と外国人観光客受入推進は、地域経済活性化に効果的であると言えます。

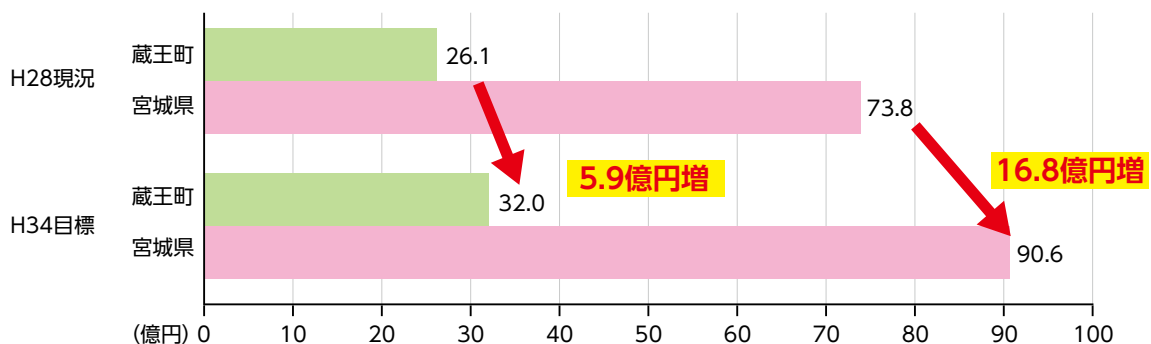


図 24 蔵王町内及び宮城県全体への経済波及効果

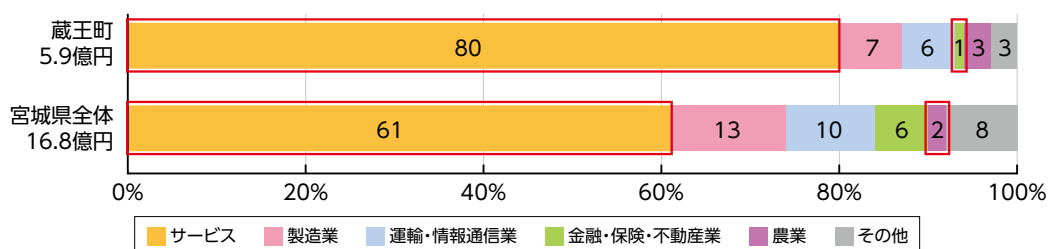


図 25 蔵王町内及び宮城県全体への経済波及効果（増額分）の産業別の内訳

表 10 蔵王町を訪れる観光客が1人増加した場合の経済波及効果

	蔵王町内に 与える効果	
国内 日帰客	486円	
国内 宿泊客	5,709円	国内日帰客の約12倍
外国人 宿泊客	14,527円	国内日帰客の約30倍

資料:蔵王町の経済波及効果 (H29蔵王町観光客アンケート調査結果の平均消費額を用いて算出)

経済波及効果とは…

経済波及効果とは、新たに需要が発生したときに、その需要を満たすために次々と新たな生産が誘発（波及）されていくことであり、直接効果、第1次間接波及効果、第2次間接波及効果の合計により算出します。

直接効果とは…………… 新たに発生した消費や投資によって、その需要を満たす生産が誘発されます。このうち、町外に流出せず、町内各産業部門に誘発された生産額を「直接効果」といいます。

第1次間接波及効果とは… 直接効果に伴う原材料等の購入（投入）によって誘発される生産額を「第1次間接波及効果」といいます。

第2次間接波及効果とは… 直接効果と第1次間接波及効果を通じて発生した雇用者所得のうち、一部は貯蓄されますが、一部は新たに消費として支出されます（民間消費支出）。この民間消費支出の増加によって誘発された生産額を第2次間接波及効果といいます。

3-2 経済効果

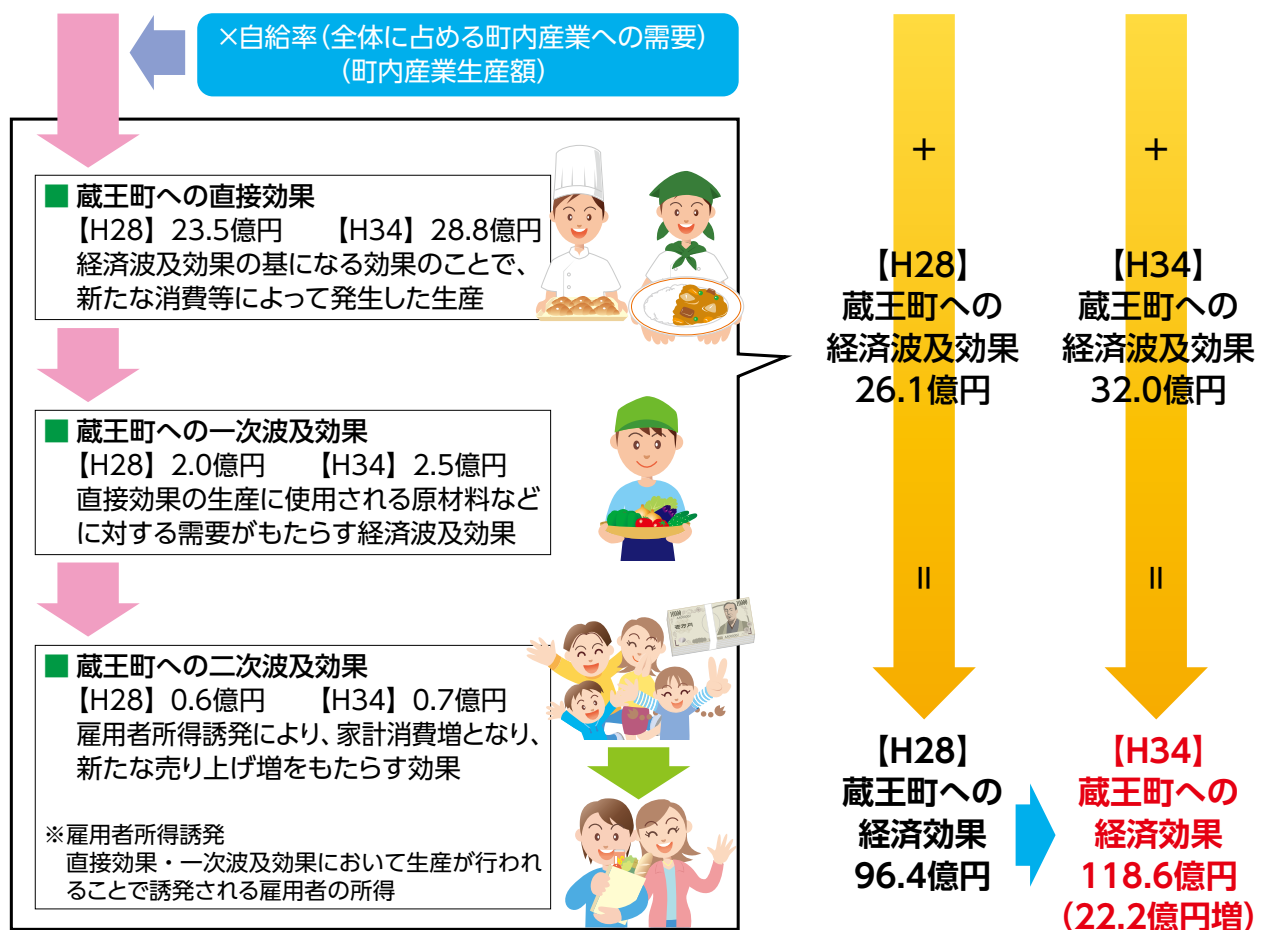
旅行・観光による蔵王町への経済効果は、観光消費額（P.14、P.15）と経済波及効果（P.32、P.33）を合算した金額となります。

現在（平成28年）の観光消費額は70.3億円、経済波及効果は26.1億円となっており、経済効果は96.4億円となります。

将来（平成34年）の観光客入込数が本計画で掲げる目標値まで増加した場合、観光消費額は86.6億円、経済波及効果は32.0億円となり、経済効果は118.6億円（22.2億円増）となる見込みです。

蔵王町内の旅行・観光消費額

		蔵王町内での 1人当たりの 平均消費額 (A)	H28 観光客入込数 (B)	H34目標 観光客入込数 (C)	H28 観光消費額 (A×B)	H34 観光消費額 (A×C)
国内 観光客	日帰り	1,727円	1,323,402人	1,700,000人	22.9億円	29.4億円
	宿泊	13,763円	331,772人	390,000人	45.7億円	53.7億円
外国人 観光客	宿泊	34,867円	5,000人	10,000人	1.7億円	3.5億円
合 計		—	1,660,174人	2,100,000人	70.3億円	86.6億円



第4章 観光の基本方針

施策1 知名度を生かした観光まちづくりの強化

取組1 地域資源の再発見と新たな魅力づくり

取組2 通年観光強化と滞在型リゾートの促進

取組3 観光と農林業、地場産業との連携

取組4 観光振興のための景観形成と保全

取組1 地域資源の再発見と新たな魅力づくり

- ①観光資源の掘り起こしを行い、さらに磨き上げて活用を図ります。
- ②体験型観光をさらに推進するため、蔵王の知名度と魅力を生かした個性ある旅行商品の開発や新たなイベントの企画を行います。
- ③「温泉による健康づくり」と「星空の綺麗な町」をテーマとした魅力づくりを創出し、宿泊滞在型メニューの開発を進めます。
- ④蔵王の豊富な食材を生かした新たなイベントの企画を行います。
- ⑤環境の美化や散策路の整備、商店の魅力づくり等を図り、歩いて楽しい「温泉街」づくりを進めます。



取組2 通年観光強化と滞在型リゾートの促進

- ①スキー場におけるグリーンシーズンの魅力アップを図るため、春から秋にかけてのイベントの実施や周辺観光施設等との周遊商品造成等を促し、通年型観光を強化します。
- ②スノーリゾートと連携した地域活性化企画の充実強化を図り、滞在型リゾートを目指します。

取組3 観光と農林業、地場産業との連携

- ①農林業、工業、サービス業と連携し、地域資源を組み合わせた新たな観光商品づくりを進めます。
- ②農畜産物や物産品等を町内外で販売する機会を創出し、地場産業の育成を図ります。
- ③農畜産物を活用した新たな名物料理を開発し、宿泊施設や飲食店等と連携した販売・取引の促進を図ります。

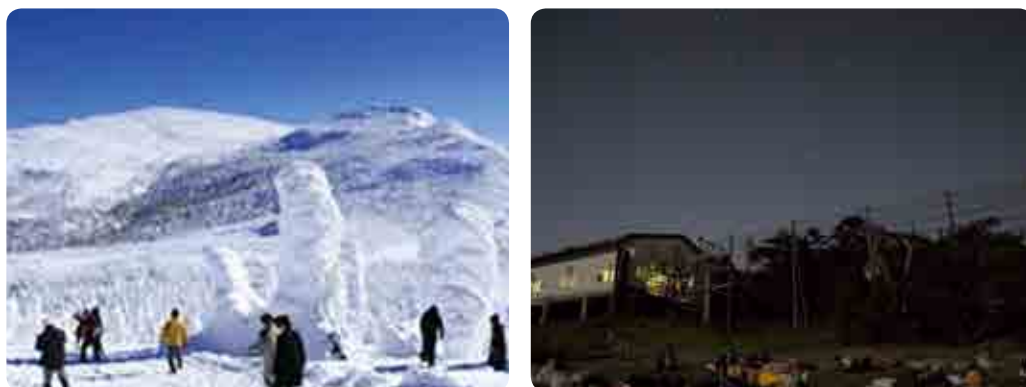
取組4 観光振興のための景観形成と保全

- ①自然環境や農村景観を生かした観光の振興を図るため、景観の保全に関する施策を検討します。
- ②桜、もみじ、芝桜等の植栽により、20年、30年後の名所づくりを進めます。

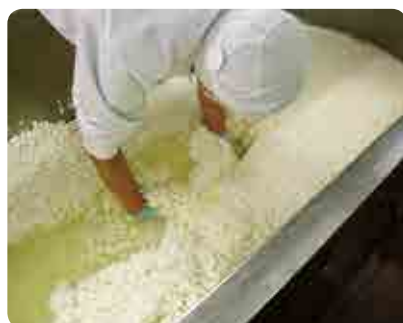
成 果 指 標	現状値 (H28)	目標値 (H34)
観光客入込数	166万人/年	210万人/年
宿泊観光客数	33万人/年	40万人/年
物産イベントの出展数	5回/年	7回/年
植栽等による名所づくり	0箇所	1箇所



四季を通じた体験型観光として農業体験の実施



滞在型観光としての魅力（樹氷や星空）



チーズづくり



梨狩り



蔵王高原大根収穫体験

施策2 受入れ体制の整備

取組1 観光施設等の整備

取組2 地域公共交通と連携した域内周遊交通ネットワークの整備

取組3 広域連携・広域観光の推進

取組4 人に優しい安全・安心な観光地の整備

取組5 観光ガイドの育成

取組6 町民によるおもてなし意識の醸成

取組7 インバウンド（訪日外国人観光客）受入れ体制の整備

取組1 観光施設等の整備

- ①登山道、遊歩道等観光施設の維持管理及び整備促進を図ります。
- ②最寄りインターから遠刈田温泉までの多言語に対応した誘導案内標識等の整備充実を図ります。
- ③宿泊施設や観光施設におけるピクトグラム（絵文字）表示を活用した多言語案内標識等の整備促進を図ります。

取組2 地域公共交通と連携した域内周遊交通ネットワークの整備

- ①地域公共交通計画と連携した地域内二次交通の整備を検討します。
- ②観光タクシーやレンタルサイクルを活用した地域内移動手段の充実を図ります。

取組3 広域連携・広域観光の推進

- ①宮城インバウンドDMOや仙台市、山形市等の周辺市町と相互連携した広域周遊観光ルートの整備を図ります。
- ②国営みちのく杜の湖畔公園や周辺観光地との連携を図ります。

取組4 人に優しい安全・安心な観光地の整備

- ①みやぎ蔵王こけし館等観光施設利用者が安全に利用できるよう施設の整備点検を行います。
- ②蔵王山火山噴火等有事の際に備え、関係機関と連携し、観光客等の避難誘導等訓練を実施します。

取組5 観光ガイドの育成

- ①生涯学習分野及び国際交流団体等との連携により、町内人材の活用と観光ガイドの育成を図ります。
- ②地元向けのまちなか歩きイベントを開催し、町内観光資源への関心を促すことにより、観光ガイドの育成及び町民のおもてなし意識の高揚を図ります。

取組6 町民によるおもてなし意識の醸成

- ①おもてなしマニュアル等を作成し、町民全体の接客対応向上とおもてなしの心の醸成を図ります。
- ②おもてなし研修会や座談会の開催により、町民全体の意識改革及びおもてなしスキルアップを図ります。

取組7 インバウンド（訪日外国人観光客）受入れ体制の整備

- ①インバウンドおもてなし研修会等の開催により、外国人が安心して訪れることのできる受入れ体制の整備を図ります。
- ②翻訳タブレットや指差しツール等を導入し、外国語での案内に対応できる体制整備を図ります。

成 果 指 標	現状値（H28）	目標値（H34）
多言語案内標識の整備箇所数	0箇所	3箇所
レンタルサイクルの導入	0台	10台
広域周遊観光モデルコースの整備	0件	5件
避難誘導等訓練の実施	0回/年	1回/年
観光ガイド研修会の開催	3回/年	3回/年
おもてなし研修会の開催	0回/年	2回/年
翻訳タブレットの設置箇所数	0箇所	4箇所

施策3 戦略的な観光情報の発信

取組1 積極的な観光宣伝・PR・情報発信

取組2 教育旅行の積極的誘致

取組3 インバウンド（訪日外国人観光客）の誘致促進

取組1 積極的な観光宣伝・PR・情報発信

- ①SNSやYouTubeを活用した動画配信など、効果的な観光宣伝方法を検討し、国内外に向けた情報発信に努めます。
- ②観光PRキャラクター等を活用し、国内外へ蔵王ブランドのPR推進を図ります。
- ③サポーター制度の創設等により、蔵王町のファンづくりとイメージアップを図ります。



取組2 教育旅行の積極的誘致

- ①新幹線利用による広域エリアからの教育旅行の積極的誘致を図ります。

取組3 インバウンド（訪日外国人観光客）の誘致促進

- ①宿泊施設及び観光関連施設等と一体となったインバウンドの誘致を図ります。
- ②町の魅力を伝える多言語パンフレット及びホームページ案内等の整備充実を図ります。
- ③海外現地での旅行博や商談会に参加し、蔵王町への誘客を促進します。



英語対応パンフレット



韓国語対応パンフレット



中国語対応パンフレット

成果指標	現状値 (H28)	目標値 (H34)
観光客入込数	166万人/年	210万人/年
宿泊観光客数	33万人/年	40万人/年
外国人宿泊者数	5,000人/年	10,000人/年
教育旅行受入人数	250人/年	500人/年

施策4 観光振興推進体制の整備

取組1 観光振興推進組織の整備・強化

取組2 観光事業者間の連携強化

取組3 観光統計の整備

取組1 観光振興推進組織の整備・強化

- ①観光物産協会等、観光に携わる各種団体の指導・育成を図ります。
- ②入湯税等を財源として、観光物産協会活動の充実強化に向けた支援を行います。
- ③観光物産協会への観光案内所の委託を行い、観光情報の発信及び来訪者等への適切な案内に努めます。

取組2 観光事業者間の連携強化

- ①総合的な「観光商品」づくりを推進するため、関係事業者間の横断的な連携を図ります。
- ②旅館組合との連携を図り、遠刈田温泉のブランド価値向上に向けて活動を支援します。
- ③観光イベントを行う団体との連携を図り、相乗効果が上がるように活動を支援します。

取組3 観光統計の整備

- ①実態基礎データの収集、分析を行い、観光施策への活用を図ります。
- ②ビッグデータの活用と分析を行い、ターゲットを明確にした観光施策を進めます。

成 果 指 標	現状値 (H28)	目標値 (H34)
観光案内ホームページアクセス数	87万件/年	95万件/年
観光物産協会組織強化の支援	継続中	継続
新たな観光商品造成数	1件	5件
観光客意向調査の実施	0回	2回
観光データの収集・分析	0回	2回

蔵王町観光振興基本計画 体系表

基本理念

町民一人ひとりが主役となり、町に誇りと愛着を持って観光客をもてなす、世界に名立たる「蔵王」の観光振興まちづくり

【目標像】

- 蔵王高原の自然に包まれながら時を忘れ、気がつけば、私のふるさとみやぎ蔵王
- いつ来ても、何度来ても変わらぬ自然と人の笑顔、やっぱりここが蔵王町
- 町民一人ひとりが活気に溢れ、すべての産業がつながり発展する、いきいきと輝く蔵王町



基本方針

知名度を生かした観光まちづくりの強化

- 取組1 地域資源の再発見と新たな魅力づくり
- 取組2 通年観光強化と滞在型リゾートの促進
- 取組3 観光と農林業、地場産業との連携
- 取組4 観光振興のための景観形成と保全

受入れ体制の整備

- 取組1 観光施設等の整備
- 取組2 地域公共交通と連携した域内周遊交通ネットワークの整備
- 取組3 広域連携・広域観光の推進
- 取組4 人に優しい安全・安心な観光地の整備
- 取組5 観光ガイドの育成
- 取組6 町民によるおもてなし意識の醸成
- 取組7 インバウンド（訪日外国人観光客）受入れ体制の整備

戦略的な観光情報の発信

- 取組1 積極的な観光宣伝・PR・情報発信
- 取組2 教育旅行の積極的誘致
- 取組3 インバウンド（訪日外国人観光客）の誘致促進

観光振興推進体制の整備

- 取組1 観光振興推進組織の整備・強化
- 取組2 観光事業者間の連携強化
- 取組3 観光統計の整理

数 値 目 標

評価・検証

第5章 観光振興の基本計画

本町の観光振興を図るため、第4章の基本方針に基づいて、観光振興基本計画を次のとおり定めます。
なお、具体的な施策例については、社会経済情勢や財政状況等を考慮しながらその実施を検討していくものとします。

基本方針 1 知名度を生かした観光まちづくりの強化

取組 1 地域資源の再発見と新たな魅力づくり

- ①観光資源の掘り起こしを行い、さらに磨き上げて活用を図ります。
- ②体験型観光をさらに推進するため、蔵王の知名度と魅力を生かした個性ある旅行商品の開発や新たなイベントの企画を行います。
- ③「温泉による健康づくり」と「星空の綺麗な町」をテーマとした魅力づくりを創出し、宿泊滞在型メニューの開発を進めます。
- ④蔵王の豊富な食材を生かした新たなイベントの企画を行います。
- ⑤環境の美化や散策路の整備、商店の魅力づくり等を図り、歩いて楽しい「温泉街」づくりを進めます。

施策例

- 白石蔵王駅や仙台駅を起点とした周遊コース作り
- 雪を見る体験、観光果樹園での体験など、春夏秋冬の体験型修学旅行の受け入れ強化
- 物産展での大道芸の披露等、既存イベントの拡張
- 宿泊・飲食・観光施設での共通食材活用と「食」のブランド化
- 飲食店と連携した食のキャンペーンの実施
- 地場産品を使った食事の提供
- 昔ながらの食材を使った郷土料理の統一提供
- 遠刈田温泉で作る温泉卵の提供と温泉街の散策
- 森林浴や森林療法など、健康志向をテーマとした新たな取組み
- 蔵王ジオパーク構想におけるジオサイト候補地を活用した新たな体験メニューづくり



水田での体験



チーズづくり体験



花桃の実落とし体験

取組2 通年観光強化と滞在型リゾートの促進

- ①スキー場におけるグリーンシーズンの魅力アップを図るため、春から秋にかけてのイベントの実施や周辺観光施設等との周遊商品造成等を促し、通年型観光を強化します。
- ②スノーリゾートと連携した地域活性化企画の充実強化を図り、滞在型リゾートを目指します。

施策例

- 自然、食など、季節別・テーマ別の観光資源の活用
- 地元のガイドによる季節ごとの草木花を説明するツアーの企画
- 健康増進メニュー等を盛り込んだヘルスツーリズムの推進
- 溪流釣りや野外でのパン作り体験、トレッキングなどのイベント促進
- 山菜やキノコなどの地場野菜の料理提供
- 宿泊、観光、飲食、買物、移動等をセットにした便利で割安感のある商品開発
- 夜間・早朝のイベント促進
- 蔵王町や近隣のミュージシャンによる星空や夜景を眺めながらのコンサートの企画



夏の沢遊び キャンオニング

取組3 観光と農林業、地場産業との連携

- ①農林業、工業、サービス業と連携し、地域資源を組み合わせた新たな観光商品づくりを進めます。
- ②農畜産物や物産品等を町内外で販売する機会を創出し、地場産業の育成を図ります。
- ③農畜産物を活用した新たな名物料理を開発し、宿泊施設や飲食店等と連携した販売・取引の促進を図ります。

施策例

- 農業体験と宿泊を組み合わせたツアーの企画
- クラインガルテン（市民農園）の推進
- 農林漁業や職場体験メニューの整備
- 遊休農地や空き家の有効活用
- 「道の駅」的機能をもつ施設の整備検討
- 蔵王爽清牛、里いものアイスクリーム、梨ジュースなど新たな商品の提供
- 名物料理としてジビエ料理の提供
- 地場特産食材を使った料理コンテスト
- 生産者と連携した地産地消の推進体制の整備



蔵王産梨のベトナム輸出



売出し中の蔵王爽清牛



開発したさといものジェラート

取組4 観光振興のための景観形成と保全

- ①自然環境や農村景観を生かした観光の振興を図るため、景観の保全に関する施策を検討します。
- ②桜、もみじ、芝桜等の植栽により、20年、30年後の名所づくりを進めます。

施策例

- 景観条例の整備
- 桜木のてんぐ巣病対策の支援
- 春の再訪を目的とした秋口のすいせんの球根を植える体験型イベントの実施
- 自然環境を生かした観光振興（キャンプ場）
- ライトアップやイルミネーションによる夜の景観づくり
- 未来の名所づくり
- 里山づくりへの事業支援
- 町民による環境美化活動の推進
- 森林散策路など森林を活用した保健休養空間の整備促進



コカ・コーラ「森に学ぼう」プロジェクトでの植林体験



松川桜保存会のみなさん



てんぐ巣病にかかった桜の木の枝を切り落とす作業



すいせんの球根を植える作業を
レクチャー



ゲレンデいっぱいにすいせんが
咲き誇ります

基本方針 2 受入れ体制の整備

取組1 観光施設等の整備

- ①登山道、遊歩道等観光施設の維持管理及び整備促進を図ります。
- ②最寄りインターから遠刈田温泉までの多言語に対応した誘導案内標識等の整備充実を図ります。
- ③宿泊施設や観光施設におけるピクトグラム（絵文字）表示を活用した多言語案内標識等の整備促進を図ります。

施策例

- 県道白石上山線の迂回路確保
- 遠刈田温泉の大型バス駐車場の確保
- 多言語の案内板の整備
- 登山道山岳トイレの整備
- 手荷物預かり所の整備



登山道や遊歩道の維持管理



最寄りのインター出口前の案内板

取組2 地域公共交通と連携した域内周遊交通ネットワーク整備

- ①地域公共交通計画と連携した地域内二次交通の整備を検討します。
- ②観光タクシーやレンタルサイクルを活用した地域内移動手段の充実を図ります。

施策例

- バスなどの二次交通運行の検討
- 仙台空港から二次交通の確保
- 遠刈田温泉街～七日原、遠刈田温泉街～御釜などの二次交通の整備
- 蔵王山頂行き路線バスの便数増加対策の検討
- 観光タクシーの活用促進
- 電動式自転車を活用したレンタルサイクルの実施

取組3 広域連携・広域観光の推進

- ①宮城インバウンドDMOや仙台市、山形市等の周辺市町と相互連携した広域周遊観光ルートの整備を図ります。
- ②国営みちのく杜の湖畔公園や周辺観光地との連携を図ります。

施策例

- 他市町村と連携した広域周遊コースの作成
- 山形蔵王との積極的なコラボレーション
- 県南4市9町との広域連携の継続・強化
- 国営みちのく杜の湖畔公園との連携強化
- 農業や林業を経験するツアーなど、連携によって産業そのものの成長を図る事業の企画



山形県側との連携により
実現した
日本の蔵王ヒルクライム

取組4 人に優しい安全・安心な観光地の整備

- ①みやぎ蔵王こけし館等観光施設利用者が安全に利用できるよう施設の整備点検を行います。
- ②蔵王山火山噴火等有事の際に備え、関係機関と連携し、観光客等の避難誘導等訓練を実施します。

施策例

- 施設を安全・安心に利用していただくための施設点検の強化
- トイレ、駐車場、宿泊施設等のユニバーサルデザインの推進
- 公衆トイレの洋式化の推進
- 車椅子配備の充実
- 視覚・聴覚障がい者を体験モニターとした観光地バリアフリー化の検討
- 障がい者も楽しめる体験メニューづくり
- 関係機関と連携した観光客等の避難誘導等訓練の実施



みやぎ蔵王こけし館



県営蔵王レストハウスのスロープ



取組5 観光ガイドの育成

- ①生涯学習分野及び国際交流団体等との連携により、町内人材の活用と観光ガイドの育成を図ります。
- ②地元向けのまちなか歩きイベントを開催し、町内観光資源への関心を促すことにより、観光ガイドの育成及び町民のおもてなし意識の高揚を図ります。

施策例

- 観光ガイド育成のための組織の立ち上げ
- 町外者や若い世代の観光ガイドの育成
- ジャンルに応じた観光ガイドの育成強化
- 現在活動している関係団体との連携
- 生涯学習分野及び国際交流団体等組織の町民への周知や情報の共有
- 町民を対象としたトレッキング、史跡めぐり等の事業推進
- 若い世代が蔵王町に誇りと愛着をもってもらうためのきっかけづくりの事業推進



遠刈田温泉街散策コースとガイドさん

取組6 町民によるおもてなし意識の醸成

- ①おもてなしマニュアル等を作成し、町民全体の接客対応向上とおもてなしの心の醸成を図ります。
- ②おもてなし研修会や座談会の開催により、町民全体の意識改革及びおもてなしスキルアップを図ります。

施策例

- 町民自体に、地域の魅力や観光資源の情報提供としてのマップやマニュアルの作成
- おもてなし研修会や座談会の開催
- 外国人観光客向けの、簡単にできる手作りの飾りやお土産の作成
- 障がい者やボランティアによる折鶴などのおもてなしグッズの作成、町民の意識改革
- 小学校授業での、観光おもてなしなど地域学習への取組みの促進



たっぷり蔵王！キャンペーン



矢附真田の会のおもてなし

取組7 インバウンド（訪日外国人観光客）受入れ体制の整備

- ①インバウンドおもてなし研修会等の開催により、外国人が安心して訪れることのできる受入れ体制の整備を図ります。
- ②翻訳タブレットや指差しツール等を導入し、外国語での案内に対応できる体制整備を図ります。

施策例

- おもてなし研修会等の町民への周知
- 研修会後のおもてなしの方向性や実践でのスキルアップ、各所との連携と情報共有
- 翻訳タブレットや指差しツール等の導入
- 通訳など観光案内所での外国人の活用
- 国際交流員を活用した、学校、地域の活性化や観光振興の推進
- 国際交流活動の推進
- 外国人観光客に対するマナーの啓発と防犯体制の強化
- 災害等緊急時の避難行動マニュアルの作成・周知



インバウンド研修会



台湾プロモーション

基本方針3 戦略的な観光情報の発信

取組1 積極的な観光宣伝・PR・情報発信

- ①SNSやYouTubeを活用した動画配信など、効果的な観光宣伝方法を検討し、国内外に向けた情報発信に努めます。
- ②観光PRキャラクター等を活用し、国内外へ蔵王ブランドのPR推進を図ります。
- ③サポーター制度の創設等により、蔵王町のファンづくりとイメージアップを図ります。

施策例

- SNSやYouTubeの活用に向けた勉強会や研修会の開催
- ざおうさまによるYouTube動画配信
- セキュリティ対策を念頭に、個人と町の情報共有、情報発信
- 旅行会社、JR、航空会社を対象とする旅行商品企画の働き掛け
- グルメ、体験、散策などテーマ別のパンフレットやマップの整備
- 顧客満足度（CS）把握の充実と対応策の検討
- 報道機関への積極的な情報発信



地元の物産やざおうさまグッズの販売



樹氷とざおうさま

取組2 教育旅行の積極的誘致

- ①新幹線利用による広域エリアからの教育旅行の積極的誘致を図ります。

施策例

- 登山時の緊急対応を学ぶ教育旅行の実施
- 農業体験のような体験型の教育旅行の充実、受入れ体制の整備
- 団体ではなく少人数旅行でも対応できるプランの作成
- 需要と供給によるマッチング検討
- 近隣市町との連携による誘致促進
- 農業体験受入れ側の負担軽減のためのマニュアル作成



白石蔵王駅



東北新幹線・北海道新幹線

取組3 インバウンド（訪日外国人観光客）の誘致促進

- ①宿泊施設及び観光関連施設等と一体となったインバウンドの誘致を図ります。
- ②町の魅力を伝える多言語パンフレット及びホームページ案内等の整備充実を図ります。
- ③海外現地での旅行博や商談会に参加し、蔵王町への誘客を促進します。

施策例

- 各団体や施設、個人での、情報共有や連携による誘致促進
- ターゲット（国）を絞った効率的な多言語パンフレットやホームページ作成
- アジア以外の国の積極的な誘致活動
- 海外現地プロモーションへの観光関係者の積極的参加の推進



台湾での商談会



6か国語に対応したパンフレット

4 観光振興推進体制の整備

取組1 観光振興推進組織の整備・強化

- ①観光物産協会等、観光に携わる各種団体の指導・育成を図ります。
- ②入湯税等を財源として、観光物産協会活動の充実強化に向けた支援を行います。
- ③観光物産協会への観光案内所の委託を行い、観光情報の発信及び来訪者等への適切な案内に努めます。

施策例

- 観光物産協会など、中心的組織への観光専門職の常設
- 人材の配置に伴う財源の確保
- 行政分野での「（仮称）観光振興連絡調整会議」の設置
- 観光振興基本計画の進行管理機能の整備



蔵王町観光案内所

取組2 観光事業者間の連携強化

- ①総合的な「観光商品」づくりを推進するため、関係事業者間の横断的な連携を図ります。
- ②旅館組合との連携を図り、遠刈田温泉のブランド価値向上に向けて活動を支援します。
- ③観光イベントを行う団体との連携を図り、相乗効果が上がるように活動を支援します。

施策例

- 観光商品としてのテーマに基づく連携の推進
- 連携を図るためのコーディネーターの選出・介在
- 販売促進に向けた、観光商品へのインセンティブの付与



とがった大道芸

取組3 観光統計の整理

- ①実態基礎データの収集、分析を行い、観光施策への活用を図ります。
- ②ビッグデータの活用と分析を行い、ターゲットを明確にした観光施策を進めます。

施策例

- 目的に合わせたビッグデータの収集分析の実施
- 観光客意向調査・経済影響調査の実施



観光客対象にアンケート調査の実施

第6章 計画の推進体制

① 役割分担

観光振興基本方針に基づき、本町の観光レクリエーション振興施策を推進していくためには、行政はもとより、蔵王町観光物産協会を中心とした観光関係団体や民間事業者の積極的な取り組み、さらに域外の人々から憧れられるような魅力的な地域づくりの担い手となる町民それぞれが担うべき役割を果たし、情報を共有し、相互に協力・連携していくことが重要です。

(1) 町民の役割

- 「理想的な観光地域」づくりは、町民一人ひとりの参画が不可欠であることを十分認識し、ホスピタリティ（おもてなし）意識の向上を図ることが必要です。
- また、地域の環境美化や景観形成活動、祭りやイベント等への積極的な参加・協力を行うことが求められています。

(2) 観光関連事業者の役割

- 観光関連事業者は、来訪者と直に接し、旅の印象付けに大きなウェイトを占めるため、ホスピタリティ（おもてなし）意識の向上に積極的に取り組むことが必要です。
- その上で事業所ごとの特色あるサービス提供や施設の整備改善等を図り、経営基盤を充実させていくことが望まれています。
- また、遠刈田温泉エリアや町全体としての広域的な魅力アップを図るため、他の宿泊施設や観光施設等との連携を図っていくことが求められています。

(3) 観光関係団体の役割

- 蔵王町観光物産協会を中心とした観光関係団体は、構成組織の連携強化に努め、魅力ある誘客メニューの開発や観光キャンペーン・宣伝活動の展開、祭り・イベント等の実施、研修会や講習会による人材育成など、町をあげての具体的な事業推進に努めていくことが求められています。
- また、観光振興基本計画に基づく諸施策の推進状況を、民間の立場から検証する役割を担っていくことが望まれています。

(4) 行政の役割

- 総合的な観光振興を図るため、観光振興基本計画を策定するとともに、関係機関、団体、町民等との協議・調整を行い、本計画の実効性を確保しながら計画推進に努めていきます。
- また、観光振興に必要な基盤施設整備や観光資源の保護・活用、公立観光施設の維持管理、ニューツーリズムの推進、観光ガイドの養成支援、情報の収集と提供、蔵王町企業奨励条例に基づく観光企業等の支援・誘致等は、行政の担うべき分野としてその役割を果たしていきます。

(5) DMOの役割

- 平成29年に設立された「宮城インバウンドDMO推進協議会」及び「一般社団法人宮城インバウンドDMO」は、県南4市9町におけるインバウンド観光を軸とした観光地域づくりを目的として、行政のみならず、多様な観光関係者が連携した取り組みを展開します。

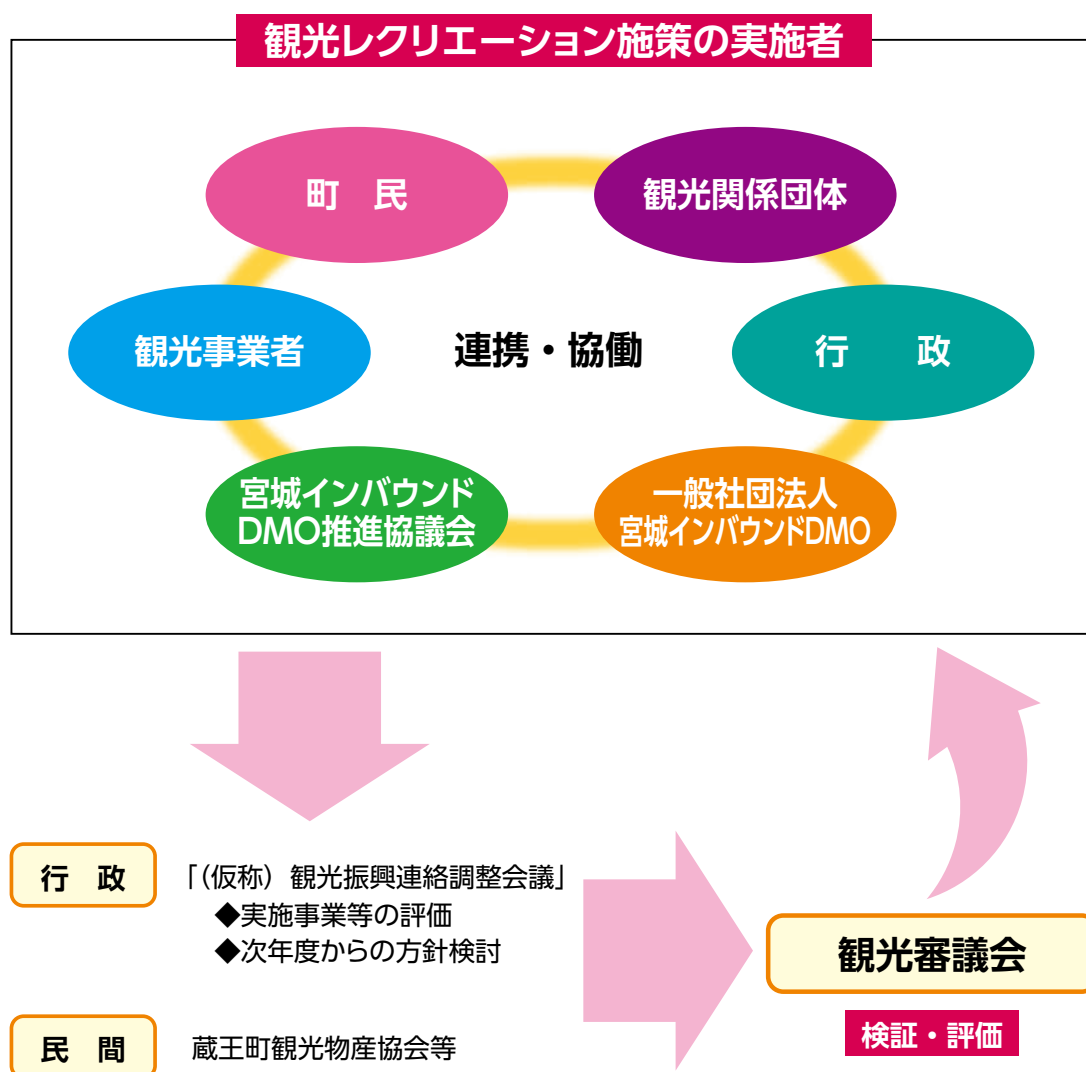
② 推進体制の整備

本計画の推進に当たっては、第五次蔵王町長期総合計画などの上位計画や関連事業等との整合性を図るとともに、数値目標達成のための実施計画を別途策定することとします。また、社会経済情勢や町財政状況に応じた見直しを行いながら、効果的かつ弾力的に施策を展開していくものとします。

なお、計画を推進するために、全庁的な体制による「（仮称）観光振興連絡調整会議」を組織し、関係部署間の十分なコンセンサスを図りながら、実施した事業の評価や次年度以降の事業方針検討などを行います。

併せて、本計画に基づく諸施策の推進状況を、蔵王町観光物産協会が民間の立場から検証するシステムを整備し、行政内部及び民間での事業評価をもとに、観光審議会が最終的な進行管理の検証と評価を行い、町の将来像として描く「理想的な観光地域づくり」の実現を目指していきます。

推進体制



蔵王町観光振興基本計画

資 料 編

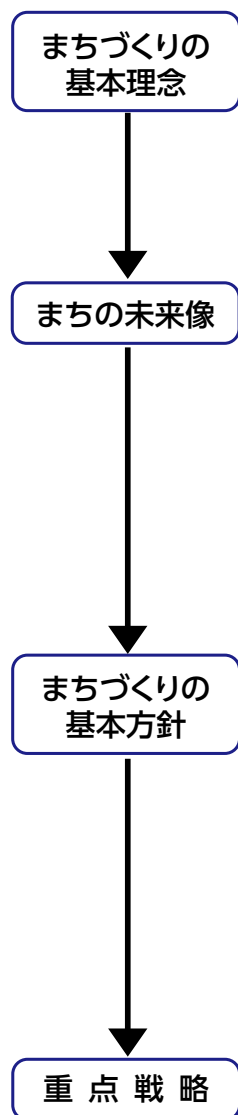
● 第五次蔵王町長期総合計画基本構想（抜粋）	1
● 蔵王町観光振興基本計画策定検討委員会設置要綱	4
● 蔵王町観光振興基本計画策定チーム設置要綱	5
● 蔵王町観光振興基本計画策定検討委員会委員、策定チーム委員等	7
● 蔵王町観光振興基本計画策定の経緯	8
● 他地域における取組事例	10
● 観光素材として活用可能な蔵王町ジオサイト候補地	27

第五次蔵王町長期総合計画 基本構想（抜粋）

（平成30年度～平成39年度：10年間）

第2部 基本構想

基本構想の体系



【未来像】

ずっと愛にあふれる
オンリーワンなまち・ざおう



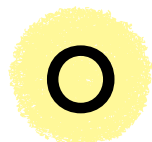
Zutto

ずっと住みたい快適な環境づくり



Ainiafureru

愛にあふれるふるさとづくり



Only one

オンリーワンな魅力づくり

第1章 まちづくりの基本理念

まちづくりの行動の根本となる基本理念の考え方は次のとおりです。

① 郷土愛の醸成

まちづくりの目標は「ここに生まれて良かった、育って良かった、住んで良かった、住み続けたい、そして住んでいることに誇りと愛着がもてるようなまち」をつくることです。

さらに、「この町に住んでみたい・・・」という憧憬の思いを抱かせることが出来れば、それほど素晴らしいことはありません。

② 町民力の結集（町民の活力と知恵の結集）

行政主体や他人まかせのまちづくりでは真の誇りや愛着をもつことは難しいのではないのでしょうか？
「自分たちのまちは自分たちがつくる」という自覚を高める必要があります。そのことは、ひいては町民一人ひとりの《誇り》にも繋がることとなります。

③ 結いの精神（コミュニティの構築）

忘れられつつある日本の文化の中に、最も大切な《結いの精神》があります。農耕文化の中で、この《結いの精神》は、しっかりと守られ引き継がれてきました。

私たち町民は、町民相互の関係や、各種団体、NPO、企業、行政等々の絆を構築しながらそれぞれの役割で、結いの精神を育成することとします。

④ 助け合い（補完性の原則）

住民に最も身近な市町村に行政の権限をできるだけ移し、自己決定・自己責任の原則に基づいて行政運営を行う地方分権型社会を実現する時代となりました。

地域の課題や問題は、そこに住む人が一番よく知っています。

地域の課題を解決するにあたり、他人まかせではなく、個人で解決できることは個人や家族が行い（自助）、個人や家族では解決できないが地域で助け合ってできることは地域で行って（互助）、それでも解決できない場合は行政と協働（公助）して取り組む「補完性の原則」のもと、町民が主役になってまちづくりに参画することにより、住むことに誇りや満足感のもてるまちづくりをすることです。

第2章 まちの未来像

私たちは、豊かで美しい自然環境や歴史・文化をはじめ、国定公園「蔵王」の恵みなど優れた地域資源を再認識した上で、これらを守りながら、さらに生かし蔵王町らしいまちづくりを推進します。

急激に進む少子高齢化のなかでも、元気な高齢者が活躍し、多くの若者等が定住し、元気に働きながら、安心して子どもを産み育てることのできる地、さらには交流人口がますます増加する活力あふれる地として「人が集まってくる豊かな町＝憧れの蔵王町」をつくりあげます。

世界的に注目される本町の魅力のすべてを表に出して「世界の癒しの地ともいえる蔵王町」を育てあげ、次世代を担う子ども達に確実に伝えることが私たちの責務です。

そのために、町民同士の絆をさらに育み《結いの精神》を守り続ける町民の英知を結集して、住む人が安心して安全に暮らし、恵まれた自然環境を守り磨き「人に優しい、自然に優しいまち」を町民一丸となってつくりあげることが将来像として、着実にまちづくりを進めます。

未 来 像

ずっと愛にあふれる
オンリーワンなまち・ざおう

みんながそれぞれの胸に抱いている、いくつもの地域の誇りを磨き、愛着を深めながら、その多様で豊かな文化を積み上げることで、みんなが活躍する人となって地域を活性化し、これまで以上に蔵王町に誇りと愛着を感じることが出来るまちづくりに取り組みます。

また、大きな時代の転換期を迎え、これからどんな時代が来ようとも「やっぱり蔵王が一番」と言えるような、憧れのまち・蔵王を目指していくことが、私たちの理想です。

地域のそれぞれの資源や特性を生かして蔵王をブランド化しながら、まちの魅力を未来につないでいきます。

町民誰もが住み続けたい、住んで良かったと思える、そして、町外の人たちが蔵王町を訪れてみたい、いつか住んでみたいと思えるよう、ずっと愛にあふれるオンリーワンなまち・ざおうを実現していきます。

蔵王町観光振興基本計画策定検討委員会設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、蔵王町観光振興基本計画策定検討委員会（以下「検討委員会」という。）の設置、組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 蔵王町観光振興基本計画（以下「計画」という。）の策定に当たり、幅広く各界各層から意見を求めるため、検討委員会を置く。

(所掌事項)

第3条 検討委員会の所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 計画の策定に関し意見を述べ、必要な検討を行うこと
- (2) その他観光振興に関し必要な事項

(組織)

第4条 検討委員会は、次に掲げる委員15名以内をもって組織する。

- (1) 次に掲げる者のうちから町長が委嘱するもの

イ 観光・産業関連機関

ロ 住民団体等

ハ 学識経験者

ニ 関係行政機関

- (2) 町職員のうち町長が任命する者

(委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、検討委員会を代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第6条 委員の任期は、計画の策定をもって終了とする。

(会議)

第7条 検討委員会の会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。ただし、最初の検討委員会の招集は町長が行い、委員長が互選されるまでの間は町長が会議の議長となる。

2 委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めてその意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第8条 検討委員会の庶務は、農林観光課において処理する。

(委任)

第9条 この要綱に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成29年8月1日から施行する。

蔵王町観光振興基本計画策定チーム設置要綱

(趣旨)

第1条 この要綱は、蔵王町観光振興基本計画策定チーム（以下「策定チーム」という。）の設置、組織及び運営について必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 わが町における観光振興施策推進に当たり各界各層から意見を求め蔵王町観光振興基本計画（以下「計画」という。）を策定するため、策定チームを置く。

(所掌事項)

第3条 策定チームの所掌事項は、次のとおりとする。

- (1) 計画の策定に関する事項
- (2) 観光振興施策の推進に係る関係機関との協議及び調整に関する事項
- (3) その他観光振興施策の推進に必要な事項

(組織)

第4条 策定チームは、次に掲げる委員15名以内をもって組織する。

- (1) 次に掲げる者のうちから町長が委嘱するもの

- イ 観光・産業関連機関
- ロ 住民団体等
- ハ 学識経験者
- ニ 関係行政機関

- (2) 町職員のうち町長が任命する者

(委員長及び副委員長)

第5条 策定チームに委員長及び副委員長を置き、委員の互選によりこれを定める。

2 委員長は、会務を総理し、検討チームを代表する。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(任期)

第6条 委員の任期は、計画の策定をもって終了とする。

(会議)

第7条 策定チームの会議は、必要に応じて委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。ただし、最初の策定チームの会議招集は町長が行い、委員長が互選されるまでの間は町長が会議の議長となる。

2 委員長は、必要に応じて委員以外の者の出席を求めてその意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(部会)

第8条 計画の策定に係る具体的・専門的事項の調査検討を行うため、必要に応じて策定チームに部会を置くことができる。

2 部会は、部会長及び部会員をもって組織する。

3 部会長は部会を統括し、部会員の互選により定める。

4 部会の会議は、部会長が招集し、部会長が会議の議長となる。

5 部会長は、必要に応じて部会員以外の者の出席を求めてその意見を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 策定チームの庶務は、農林観光課において処理する。

(委任)

第10条 この要綱に定めるもののほか、策定チームの運営に関し必要な事項は、委員長が策定チームの会議に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成29年8月1日から施行する。

■ 蔵王町観光振興基本計画策定検討委員会委員

No.	役 職	氏 名	区 分	所属事業所・団体役職等
1	委員長	藤 原 光 男	観光・産業関連機関	一般社団法人 蔵王町観光物産協会事務局長
2	副委員長	高 橋 研 一	観光・産業関連機関	遠刈田温泉旅館組合副組合長
3		齋 藤 長 大	観光・産業関連機関	一般社団法人 蔵王町観光物産協会副会長
4		村 上 輝 明	観光・産業関連機関	みやぎ仙南農業協同組合蔵王地区代表理事
5		山 家 一 彦	観光・産業関連機関	蔵王町認定農業者連絡協議会長
6		佐 藤 義 則	観光・産業関連機関	蔵王町企業振興連絡協議会長
7		新 貝 誠 治	観光・産業関連機関	宮地区商店会長
8		相 原 秀 一	観光・産業関連機関	蔵王山麓真田の郷を磨く会長
9		佐 藤 久美子	観光・産業関連機関	遠刈田温泉旅館組合女性部代表
10		菅 井 啓 二	観光・産業関連機関	一般財団法人 蔵王酪農センター常務理事
11		手 塚 知 樹	金融機関	株式会社 七十七銀行蔵王支店長
12		高 橋 恵美子	関係行政機関	宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター所長
13		文 谷 政 義	関係行政機関	蔵王町教育委員会教育長
14		平 塚 勝 徳	関係行政機関	宮城県大河原地方振興事務所地方振興部次長

■ 蔵王町観光振興基本計画策定チーム委員

No.	役 職	氏 名	区 分	所属事業所・団体
1	委員長	相 澤 国 弘	観光・産業関連機関	株式会社 N コーポレーション蔵王事務所
2	副委員長	佐 藤 将 宣	飲食店	台湾喫茶 慢瑤茶
3		吉 見 節 子	宿泊施設	宮城蔵王ロイヤルホテル
4		高 野 泰 次	宿泊施設	ペンション ウッドチャック
5		宇都宮 朝 野	宿泊施設	ペンション そらまめ
6		杉 目 覚	飲食店	Coffee roastery & Cafe fua
7		小 室 美 雪	飲食店	喫茶キャロル
8		大 本 秀 実	レジャー施設	みやぎ蔵王スキー場すみかわスノーパーク
9		秋 保 暁 志	レジャー施設	みやぎ蔵王えぼしリゾート
10		齋 藤 由美子	食品販売	一般財団法人 蔵王酪農センター
11		齋 藤 仁	交通機関	株式会社ミヤコーバス白石営業所兼村田駐在
12		日 下 秀 行	伝統産業	こけし工人 よつば堂
13		佐 藤 美智恵	観光・産業関連機関	一般社団法人 蔵王町観光物産協会
14		佐 藤 朋 也	観光・産業関連機関	蔵王町商工会 青年部
15		山 家 里 美	福祉施設	特別養護老人ホーム 楽園が丘

■ 事務局

No.	氏 名	所 属	職 名
1	村 上 正 文	農林観光課	課長
2	佐 藤 敏 彦	同	課長補佐
3	平 間 和 彦	同	主幹兼観光振興係長
4	遠 藤 大 樹	同	観光振興係主事
5	佐 藤 光	同	観光振興係主事

蔵王町観光振興基本計画策定の経緯

※観光振興基本計画策定検討委員会＝「検討委員会」、観光振興基本計画策定チーム＝「策定チーム」と表記する。

年 月 日	会 議 名	出 席 者	会 議 の 概 要
【平成 29 年】 8 月 25 日	策定検討委員会・ 策定チーム合同会議	検討委員会委員 13 名 策定チーム委員 12 名 事務局 4 名	● 検討委員会及び策定チームの委員長並びに副委員長の選任 ● 観光振興基本計画策定の目的等について ● 町民会議等で出された観光に対しての意見や提案について ● 事業全体の進め方について
9 月 12 日	第 1 回策定チーム会議	策定チーム委員 12 名 事務局 5 名	● 町観光振興の課題の抽出と方向性について ● 今後の作業の進め方について 
9 月 25 日	第 2 回策定チーム会議	策定チーム委員 13 名 事務局 5 名	● 町観光振興の課題の抽出
10 月 10 日	第 3 回策定チーム会議	策定チーム委員 11 名 事務局 5 名	● 町観光振興の課題の抽出 ● 基本計画骨子案について
10 月 30 日	第 4 回策定チーム会議	策定チーム委員 8 名 事務局 5 名	● 町観光振興の基本理念と目標像について
11 月 13 日	第 5 回策定チーム会議	策定チーム委員 13 名 事務局 5 名	● 町観光振興の基本理念と目標像・中間案について
11 月 29 日	第 1 回策定検討委員会	検討委員会委員 11 名 事務局 5 名	● 計画策定にあたって ● 蔵王町の観光の現状と特性について ● 蔵王町観光の課題について ● 観光振興に向けた理念と基本計画について 

年 月 日	会 議 名	出 席 者	会 議 の 概 要
12 月 20 日	第 6 回策定チーム会議	策定チーム委員 10 名 事務局 5 名	● 基本理念と目標像について ● 計画の実現に向けた今後の施策について 
12 月 26 日	第 1 回観光審議会	観光審議会委員 10 名 事務局 3 名	● 計画策定にあたって（経過） ● 蔵王町の観光の現状と特性・課題について ● 観光振興に向けた理念と基本計画について
【平成 30 年】 1 月 17 日	第 7 回策定チーム会議	策定チーム委員 10 名 事務局 5 名	● 計画の実現に向けた今後の施策について 
1 月 22 日	第 2 回策定検討委員会	検討委員会委員 9 名 事務局 5 名	● 前計画の検証（自己評価） ● 前回会議での意見の反映について
1 月 29 日	第 2 回観光審議会	観光審議会委員 10 名 事務局 3 名	● 観光振興基本計画の内容について ● 計画期間内での重点施策について
2 月 5 日	第 1 回議員全員協議会		● 蔵王町観光振興基本計画の策定について
2 月 6 日	第 8 回策定チーム会議	策定チーム委員 10 名 事務局 2 名	● 観光振興の目標像について ● 計画の実現に向けた今後の施策について
2 月 13 日	第 3 回策定検討委員会	検討委員会委員 8 名 事務局 3 名	● 観光振興基本計画について ● 計画期間中の重点的（優先的）取組事項について
2 月 15 日	第 3 回観光審議会	審議会委員 9 名 事務局 2 名	● 観光振興基本計画について ● 今後 5 年間に於ける優先的に取り組むべき施策について ● 観光振興基本計画の策定と今後の施策について（答申）
2 月 16 日	第 2 回議員全員協議会		● 蔵王町観光振興基本計画の策定について

他地域における取組事例

本計画の施策と類似する他地域の取組事例を紹介します。

基本方針 1 知名度を生かした観光まちづくりの強化

取組 1 地域資源の再発見と新たな魅力づくり

事例	街の有志による地域資源の掘り起しと持続可能な滞在型保養地への変革の取組 (静岡県熱海市) 【実施主体：静岡県熱海市】
内容	- 高層ビルの増加、街並みの変貌に危機を感じた地元有志が NPO 法人と家守会社を設立。地域の資源を掘り起こし、元の街並みをそのまま活かした仕事と魅力のあるまちづくりを実施。人口 4 万人に対し別荘所有者 1 万世帯という構成に着目し、観光地から「持続可能な滞在型保養地」へ変革。 【地域資源の掘り起し「熱海温泉玉手箱（オンたま）」】 - 熱海に求められていることや、熱海の可能性を探る取組として、atamista により、地元住民が体験交流プログラム（路地裏街歩きツアー、体験農業、旅館の職業体験等）を通じて、地域資源を掘り下げ、その評価をマーケティングツールとして活用するイベントを実施 (H21～H26 年、累計 6,000 名が参加)。 - 移住者の家族・友人、別荘所有者等も参加し、熱海ファンが増加。 
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ 100」(内閣府地方創生推進事務局)

事例	地域住民の暮らしに寄り添う体験型観光の発展 (南信州観光園：長野県飯田市ほか 13 町村) 【実施主体：株式会社南信州観光公社】
内容	- 飯田市周辺の町村、民間団体とともに、日本初の地域受入れ型の専門旅行会社、体験型観光専門の第 3 セクターである(株)南信州観光公社を立ち上げ、400 戸以上の農家の協力の下、年間 220 校に及ぶ小・中・高校の修学旅行を受け入れ、体験学習の普及推進に大きく寄与している。 - 全国に先駆けて取り組んでいる「ワーキングホリデー」は、地元住民や高齢者にとっては生きがいにつながる活動となっている。都市と農山漁村のお互いの暮らしが豊かになる取り組みで、都市農村交流が総合的に地域活性化につながっている。平成 15 年にオーライ！ニッポン大賞内閣総理大臣賞、平成 17 年にエコツーリズム大賞優秀賞の数々の賞を受賞。 - 近年では体験教育旅行や、銘桜を巡る桜守の旅、エコツーリズムの取り組みなど全国から注目されている。  
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集 (内閣府沖縄総合事務局)

事例	歴史的な街並みの景観形成と「舟屋」を活かした施設整備による集客拡大 (京都府伊根町) 【実施主体：京都府伊根町】
内容	● 伊根湾に沿って建ち並ぶ伝統建築物「舟屋」の街並みを活かし、観光交流の拡大を図るため、官民が役割分担し、街並みの保存・修景、景観の連続性を広げる観光交流施設の整備・運営、クラウドファンディングを活用した空き舟屋の再生・活用、おもてなし観光プログラムや交通利便性の向上などの取組を推進することにより、観光関連事業の拡大、新たな雇用の創出を目指す。 【伊根町伝統的建造物群保存地区保存条例に基づく修景】 ● 道路や信号、案内看板を周辺の景観との調和に配慮し、統一感のあるものとしながら、伊根浦特有の「舟屋群」の街並みを修景し、ミシュラン・グリーンガイドにおいて二つ星を獲得するなど、外国人を含む観光客の増加につながっている。 【官民連携のまちなか観光の推進】 ● 観光協会の舟屋ガイドと巡るまると伊根体験等のプログラム、住民団体の伊根浦ゆっくり観光の会による「わがまちあるき」など、民間主体で観光ツアーを開催。 ● 滞在型観光推進のため、店舗、バス停、駐車場で乗り捨てが可能な無料のコミュニティサイクルを運行。 ● 民間5業者による海上から漁船等で舟屋の見学を行う海上タクシーを実施。 (H27年実績 6,693 件：前年度比 150%増) ● 公共施設の駐車場を一般開放し、舟屋群の町歩き観光につなげることで交流人口の増加を図る。
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ 100」(内閣府地方創生推進事務局)



取組2 通年観光強化と滞在型リゾートの促進

事例	本格グリーン・ツーリズム、プロモーションを行政が支援 (群馬県片品村) 【実施主体：片品村振興公社株式会社 旅行部】
内容	● 冬期スキー民宿を営む農家民宿の年間を通じた受入れを図るため、地域の自然や農業を活かした交流事業を展開。その後営農指導業務の中に農業観光担当を設置し、グリーン・ツーリズムの受入れ組織として先駆的な取組みを開始。 ● 「子ども長期自然体験村」の実施や登録民宿の組織化、外国人旅行者や姉妹提携の都市・JA、グリーンライフの受入れ等を行っている。平成 17 年には農家民宿の「どぶろく特区」などグリーン・ツーリズムビジネスのモデルを創出し、中山間地域の活性化に貢献している。
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集 (内閣府沖縄総合事務局)

事例	外国人観光客をもてなす地域づくりを積極的に推進 (長野県白馬村) 【実施主体：一般社団法人白馬村観光局】
内容	● 白馬村観光連盟と白馬村観光推進本部を一元化し、官民が協力して観光地づくりを進める体制を確立。観光局は、白馬マイスター制度の充実、白馬 Alps 花三昧ガイドツアーの実施など、顧客満足度向上のための取り組みを実施し、村全体の観光基盤づくりを推進。 ● 滞在型商品の提供により、白馬村での滞在時間が長くなっている。
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集 (内閣府沖縄総合事務局)



取組3 観光と農林業、地場産業との連携

事例	「観光チーム気仙沼」による沿岸地域活性化プロジェクト ～「観光業」と「水産業」の融合による、地域の営みの観光資源化～（宮城県気仙沼市） 【実施主体：観光チーム気仙沼】
内容	【「観光情報の発信」や「観光素材の発掘、磨き上げ」、「モニターツアーの実施及び検証」】 ● 地域住民参加型ポータルサイト「東北物語」を活用して気仙沼市の地域情報を一元的に集約・発信、観光資源の発掘、磨き上げと滞在プログラムの開発を行っている。また、JTBの協力を得ながら「気仙沼うんめえもんツアー」や「気仙沼みつけ旅」を開催し、ツアー参加者を対象にアンケート調査を実施し、今後の観光資源の磨き上げに活用している。取組の成果としては、ワカメ養殖漁師によるメカブ刈り体験、マグロ漁船乗船体験、カキ養殖漁師による種付け・乗船体験、製函・製氷の工場見学等の実施を行った。観光チーム気仙沼のメンバーである現役漁師や漁業・水産業事業者の協力を得て、よりリアルな漁師体験をマッチングできるようになった。
参考元	日本を元気にする地域の力 観光地域づくり事例集 2015（国土交通省・観光庁）
事例	中高年層をターゲットとした農林水産業ツーリズムの開発 （青森県南部町） 【実施主体：南部町農村交流推進課】
内容	● 「名川型交流」という農業体験、郷土料理、地域文化を生かした交流形態を確立し、その後近隣4町と「三戸地区観光振興協議会」を設立して、大規模校の修学旅行の受入を行っている。 ● 青森県との連携のもと、首都圏の中高年層と地元のコミュニケーションを楽しんでもらうモデル事業『バーチャルビレッジ達者村』を開村し活動している。 ● その他、東京の大手人材派遣会社が進める「農業インターンプロジェクト」の研修を受け入れるなど、いち早く農業体験を中心とした交流事業に着目し、近隣町村と協力体制を取りながら積極的に取り組んでいる。
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集（内閣府沖縄総合事務局）
事例	独自の風土がもてなす“唯一無二の島の旅”の展開 （長崎県小値賀町） 【実施主体：株式会社 小値賀観光まちづくり公社】
内容	● 小値賀町では既に野崎島での自然体験を中心とした小中学生の受け入れを実施していたが、古き良き日本が残る小値賀町の日常を直接体験することができる農家や漁家の民泊を提案。当初は後ろ向きだった島民に1軒1軒粘り強く説得。7軒だった受け入れ先も3年後（平成22年）には約50軒に拡大した。 ● 今や島民は「次の受け入れはいつか」と、民泊客の来島を心待ちにしていると言う。アメリカ高校生の国際交流事業など小値賀町の「島ぐるみによる観光まちづくり」の取り組みは、「エコツーリズム大賞特別賞」「毎日新聞社グリーンツーリズム大賞優秀賞」「JTB 交流文化賞最優秀賞」など数々の賞を受賞している。
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集（内閣府沖縄総合事務局）

取組4 観光振興のための景観形成と保全

事 例	世界遺産「知床」を活用したエコツーリズムや保全の広域連携 ～エコツーリズム戦略の策定と運用～（北海道斜里町・羅臼町） 【実施主体：知床エコツーリズム推進協議会など】
内 容	【企画提案制度を活用した新たな体験プログラムの開発や利用のルールづくり】 ● 世界自然遺産に登録された知床は、歴史的に自然保護思想が強く、観光利用が制限されてきた。そのような中、平成 25 年 3 月に「知床エコツーリズム戦略」が策定され、 ①自然環境の保全とその価値の向上 ②良質な自然体験の提供 ③持続可能な地域社会と経済の構築 という 3 つの基本原則を満たす、新しい観光利用やルール提案をしようとする場合には、行政機関や関係団体が集う検討会議に諮り承認を得れば、実施できることとなった。この提案制度を用いて、 ①「厳冬期の知床五湖エコツアー」 （特に冬の知床五湖への立入りが認められるガイドツアー） ②「知床岬赤岩地区羅臼昆布エコツアー」 （「昆布」への理解を深めるため、知床岬地区に特別に立入りが認められるガイドツアー） ③「ヒグマえさやり禁止キャンペーン」等、新たなエコツアーやルールが動き出している。学識経験者他、関係行政機関や地元関係団体等が一堂に会し、方向性を共有しつつ合意形成を図る方法に特徴がある。
参考元	日本を元気にする地域の力 観光地域づくり事例集 2015 （国土交通省・観光庁）



事 例	菜の花による町おこしから、持続性の高い観光産業へ （青森県横浜町） 【実施主体：横浜町役場 産業建設課】
内 容	● 平成 3 年に景観作物としての特性を活かした、よこはま菜の花マラソン、菜の花大迷路、菜の花撮影会、郷土芸能の披露や特産品の試食販売などのイベント「菜の花フェスティバル」に取り組み、一躍脚光を浴びるようになった。住民、生産者、産業団体、行政が協働で実行委員会を組織し、持続的に取り組むことで名実共に「菜の花の町…横浜町」となり、県内外から大勢の観光客が訪れるようになった。
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集（内閣府沖縄総合事務局）



基本方針 2 受入れ体制の整備

取組 1 観光施設等の整備

事例	官民一体となった高野山の外国人受入れ環境整備 ～ハード・ソフト両面による外国人観光客受入れのための環境整備、官民一体となった連携・協力関係の構築～（和歌山県高野町） 【実施主体：南海電気鉄道(株)、南海りんかんバス(株)、一般社団法人高野山宿坊協会、NPO 法人高野山異文化交流ネットワーク、金剛峯寺、高野町】
内容	【サインの充実など外国人観光客受入れのための環境整備と案内ガイドなどの外国人観光客へのサービスの充実】 ● 高野町では、金剛峯寺等と協力し、外国人観光客の利便性を向上するため多言語（日本語及び英語）表記とピクトグラムを併用したサインの充実を行ってきた。多言語表記については、国土交通省の指針に基づき「意味が伝わる」表記を徹底、ピクトグラムについても世界共通のピクトグラムを導入している。交通事業者（南海電鉄、南海りんかんバス）においても同様の対応がなされ、サイン全体が統一されたものになっている。町においては、電線の地中化を進め、山内の主要箇所は電線や電柱の無い広い空を取り戻している。また、平成20年12月に景観条例を制定、寺院を中心とした高野山らしい景観維持のため、ファサード改修の補助金制度等も導入している。南海電鉄、宿坊協会、金剛峯寺、高野町においては、パンフレットやホームページの多言語化を図り利便性の向上につとめているほか、宿坊協会や宿坊寺院での英語を話せる人員の配置や、NPO 法人高野山異文化交流ネットワークによるガイドツアーの実施など、様々な手法により、外国人観光客への対応を行っており、そのことが高野山人気につながっていると考えられる。
参考元	日本を元気にする地域の力 観光地域づくり事例集 2015（国土交通省・観光庁）



取組2 地域公共交通と連携した域内周遊交通ネットワーク整備

事例	北陸信越地域二次交通活性化プロジェクト（富山県富山市・高岡市、新潟県長岡市・新発田市・新潟市ほか） 【実施主体：北陸信越運輸局】
内容	【駅や空港や港を拠点に、観光地・温泉地を結ぶジャンボタクシーによる乗合タクシーの運行】 ● 幹線交通の発着に合わせたダイヤを組み、完全予約制で運行。 ● 便数はそれほど多くなくても良い。特定の便とだけ接続するやり方でも、観光客の利便性はあまり損われない。 【温泉地の旅館等が個別に運行している送迎バス（自家用）を、乗合タクシーやシャトルバス（営業用）に切り換え、観光客にとっての利便性の向上と宿泊業の運営合理化を同時に推進】 ● 安い価格の有料運行でも良い。無料送迎でも合理化効果が見込める。 ● 近隣の観光地等との交通を結びつけても良い。 ● 観光地経由で複数本運行すれば、観光客は、旅館・ホテルに直行するか、観光地で遊んでから、あとの便で旅館・ホテルに向かうかを選択できる。 ● もちろん、荷物は、旅館・ホテルに直行するので、手ぶら観光を楽しめる。 【まちなか周遊バスを運行】 ● 1回の乗車券のほか、1日乗車券等を販売。 ● パンフレットや飲食・買物等の割引クーポンを配付すれば、魅力がより向上。 例) 高岡市コミュニティバス「こみち」（高岡市中心市街地を循環） 小型の低床バスで、高岡の歴史を語る町並みや商店街、公共施設を周回する。 高岡市加越能鉄道㈱ 運賃 100 円 頻度 8 時～ 18 時 20 分間隔
参考元	北陸信越運輸局 富山運輸支局



取組3 広域連携・広域観光の推進

事例	国内外から選好される国際競争力の高い次世代のブランド観光地域づくりを進める観光圏の取組 ～他地域と差別化されたこの地域ならではのブランド観光地域づくりの取組・観光地域づくりマネージャーで構成する観光地域づくりプラットフォーム設置・多様な地域の関係者と連携した地域一体の取組～（ハケ岳観光圏：山梨県北杜市、長野県富士見町・原村） 【実施主体：各観光圏の観光地域づくりプラットフォーム等】
内容	【多様な地域の関係者が連携し、地域が一体となって取り組む国内外に選好される“次世代”のブランド観光地域づくり】 ● 観光圏とは、自然・歴史・文化等において密接な関係のある観光地を一体とした区域であって、区域内の多様な関係者が連携し、観光客が滞在・周遊できる魅力ある『滞在型交流観光』による観光地域づくりに取り組んでいる。全国で 13 地域が観光圏として認定されている。観光圏では現在、さらなる高みを目指し、国内外から選好される国際競争力の高い次世代のブランド観光地域づくりの取組を進めている。他地域と差別化できる、この地域ならではの独自の価値（地域らしさ）を見出し、それをブランドコンセプトとして明確化。このブランドコンセプトの世界観を体感できる滞在プログラムコンテンツの提供、景観形成や自然環境の保全、地域ならではの食の提供、宿泊施設の魅力向上、品質保証制度の導入やワンストップ窓口の整備、インバウンドの受入れ環境整備など、多岐に渡った取組を展開している。そしてこれらブランドのマネジメント管理を行う組織として、観光地域づくりマネージャーから構成される観光地域づくりプラットフォームを DMO として明確化し、地域の幅広い関係者の下、戦略的かつ一体的な観光地域づくりを進めている。
参考元	日本を元気にする地域の力 観光地域づくり事例集 2015（国土交通省・観光庁）



事例	京都府北部地域連携都市圏における持続的な経済・生活圏づくりと「海の京都観光圏」の形成 (京都府福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町) 【実施主体：京都府福知山市、舞鶴市、綾部市、宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町】
内容	● 単独では人口 10 万人に満たない京都府北部地域の 5 市 2 町が、中心となる都市を設けない水平型の広域連携により、30 万人都市に匹敵する一つの都市圏を形成し、観光、産業、移住定住、人材育成等の分野においてスケールメリットを活かした取組を推進。 ● 「海の京都」の広域観光圏づくりを目指し、複数の自治体の観光協会が統合参加する全国初の手法により平成 28 年に DMO を設立。ハード・ソフトの周遊システムを観光客起点に立って整備し、集客拡大を通じて地域経済の活性化を図る。 【京都府北部地域連携都市圏の形成に向けたスケールメリットを活かした取組の展開】 ● 圏域全体の経済成長や生活関連サービスの向上を通じて、持続可能な経済・生活圏の実現を図ることで、新たな地方創生のモデルを目指す。 ● 5 市 2 町で協議会を設立 (H27) し、舞鶴市に専任事務局を設置 (H28)。 (連携事業例) 各市町の観光協会を水平統合し設立した「海の京都 DMO」を主体とする民間経営の視点に立ったインバウンド観光や周遊観光の推進、観光人材の育成／挑戦的な生産者と事業者の出会いを創出する農商ビジネスフェア・商談会／圏域内の企業が都市部で行う大規模な合同就職面接会／大学生等が圏域内に滞在し、魅力ある仕事や生活プログラムを体験できる京都府北部版インターンシップ／住民の利便性を高めるための図書館等の公共施設の相互利用の推進 【「海の京都観光圏」の形成】 ● 「海の京都 DMO」を中心に、天橋立や世界ジオパーク等の観光資源の広域周遊の促進に向け、観光プロモーション、統一したデザインによる観光地としての景観整備等の取組を推進。
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ 100」(内閣府地方創生推進事務局)



事例	四万十川流域が共に取り組む、広域観光の強化(高知県四万十市、宿毛市、黒潮町、土佐清水市、大月町、三原村) 【実施主体：四万十川広域観光推進協議会 四万十かいどう推進協議会 (中村商工会議所)】
内容	● 高知県南西部幡多地域において 6 市町村が連携し「なんにもないのになんでもある」をテーマに、教育旅行を中心とした都市と農山漁村の交流活動を展開している。 ● 平成 7 年に全国に先駆けて環境体験型教育旅行の受入組織として幡多広域観光協議会を設立し、広域エリアの「総合受入窓口」として誘致から受入、精算まで一括する組織として活動を行っている。 ● 各地域の体験型観光受入研究会組織や個人とのネットワーク化も充実し、自然環境を活かしたアクティビティ、農林水産業体験など、現在は 100 を超える体験プログラムを広域的に提供している。
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集 (内閣府沖縄総合事務局)



取組4 人に優しい安全・安心な観光地の整備

事例	健康長寿延伸都市・松本を目指した歩いて暮らせる城下町の再生（長野県松本市） 【実施主体：長野県松本市】
内容	● 50年先を見据え「健康長寿延伸都市・松本」を将来の都市像として掲げ、だれもが健康でいきいきと暮らせるまちを目指し、松本城を中心とした歩いて暮らせるまちづくりを進めている。 【歩いてみたい城下町整備事業】 ● 中心市街地の街なみ環境整備事業により、一体的な面的整備を行い、安全安心な歩行空間や自転車の走行空間の確保、生活環境の向上、地域の活性化を目指す。 【まちなみ修景事業】 ● まちづくり協定に基づいて個人宅のファサード修景を行う場合に費用の一部を補助
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」（内閣府地方創生推進事務局）



事例	那覇空港を拠点としたユニバーサルツーリズム（沖縄県全域） ～バリアフリー観光のワンストップ化、バリアフリー観光事業の多面的展開～ 【実施主体：那覇空港しょうがい者・こうれい者観光案内所（沖縄バリアフリースターセンター）】
内容	【日本初「空港にある」バリアフリースターセンター】 ● 平成19年2月沖縄県は、「沖縄観光バリアフリー宣言」を行った。この宣言を受けて、沖縄観光コンベンションビューローをはじめ各団体等の協力のもと、バリアフリースターセンターが那覇空港の到着ロビーに開設され、日本初かつ現在唯一の空港にある同種の施設として機能している。沖縄はその島嶼性により、一部の航路を除き、那覇空港一箇所のみが県内外の出入口となっている。車いすやベビーカーのレンタルを空港で行うことができたり、観光案内・観光相談、観光サポーターの手配をすべて空港の一箇所で行うことができるいわゆる「ワンストップサービス」を可能にすることにより、沖縄を訪れる観光客にとって大変便利な施設となっている。沖縄観光コンベンションビューローが運営する「観光案内所」の中にあるので、互いに連携し合い、増加している外国人旅行者への対応も可能となっている。当スターセンターは、空港を拠点として、バリアフリー情報の収集・発信事業、旅行サポート事業に加え、バリアフリーコンサルティング事業、観光バリアフリー意識啓発事業等、多面的な事業を展開している。
参考元	日本を元気にする地域の力 観光地域づくり事例集 2015（国土交通省・観光庁）



取組5 観光ガイドの育成

事 例	松江城下の歴史と文化を活かした城下町ツーリズムによる回遊性の向上 （島根県松江市） 【実施主体：島根県松江市】	
内 容	● 散在する歴史的資料を松江歴史館に集め、まちの歴史・文化を深く知ってもらうとともに、まちなかで体感してもらうため、多様な民間主体によるまちあるきツアーを実施するなど、集客拡大を図っている。 【まちあるき観光の推進】 ● 単に観光地を巡るのではなく、まちそのものを楽しんでもらうため、着地型徒歩旅行商品を「松江おちらとあるき」として統一し、ブランドイメージを確立。 ● （一社）松江観光協会が飲食店等と連携し、城下町散策に和菓子店、茶舗、出雲そば等を組み合わせたガイド付きまちあるきコースを定時化して毎日催行（H24～）。NPO法人やボランティアガイドの会など民間が主催するまちあるきも定着。 ● ガイドのレベルアップを図るため、（一社）松江観光協会により、「松江おちらとあるきガイド研修」を実施するとともに、ガイドの持つ情報を共有するため「おちらとあるきガイドさん通信」を発行。	
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」（内閣府地方創生推進事務局）	

事 例	雄大な自然をゆったりと楽しむプログラムづくり （北海道釧路市） 【実施主体：NPO 法人阿寒観光協会まちづくり推進機構】	
内 容	● 阿寒湖温泉では民間の自然ガイド、環境省ビジターセンターによる自然ガイド、そして阿寒観光協会まちづくり推進機構には5名のツアーガイドが常駐し、それぞれの特色を活かした自然を楽しむプログラムを実施している。ツアーガイドは公募に応じて道内、愛媛、栃木、千葉などから集まった若者で構成されている。彼らは阿寒湖温泉の住民やアイヌの皆さんから阿寒の自然や文化の素晴らしさを学びながら、阿寒湖温泉の滞在プログラムとしてガイド自らが発案・発信している。また、阿寒湖温泉の住民や観光事業者を対象に登山講習、阿寒湖の自然、外国語、温泉街、地質学を学ぶ研修も実施し、地元住民に対する魅力向上、啓蒙にも努めている。ツアーガイドの任期は1年であるが、ほぼ全員が阿寒湖温泉で独立をしたり、協会に残るなど、期間終了後も阿寒湖温泉のガイドとして活躍している。	 
参考元	「地域いきいき観光まちづくり2011」（国土交通省・観光庁）	

取組6 町民によるおもてなし意識の醸成

事 例	いしかわのおもてなし（石川県加賀市・金沢市） 【実施主体：公益社団法人 石川県観光連盟】
内 容	【レディー・カガの取り組み～次代を担う子どもたちとともに～】 ● 温泉旅館や飲食店、観光施設のスタッフなど、加賀温泉郷で働く 100 人の女性がメンバーとなりレディー・カガを結成し、さまざまな活動を行っている。平成 26 年に開催した「加賀四湯博」のイベントでは、キャンペーンのシンボルを務め、温泉地を巡る周遊ゲームの参加者や宿泊者への景品として、レディー・カガのトランプや等身大のバスタオルをプレゼントするなどのおもてなし活動を行った。また、加賀温泉郷の観光 PR をアメリカ・ニューヨークで行うなど、海外での観光 PR にも力を入れている。現在はレディー・カガの写真集を制作し、新たなノベルティグッズとして活用している。 【金沢もてなし隊の取り組み～旅人の疲れをいやす、お茶のおもてなし～】 ● 金沢ボランティア大学校の同期生が集まり、平成 17 年に設立した「金沢もてなし隊」。現在 60 ～ 70 歳代を中心に 34 名が活動している。2 月から 12 月の毎週土曜日、もてなしドーム地下広場で、湯茶のふるまいをしながら、立ち寄られた方々とちょっとした会話を楽しんでいる。メンバーの特徴は、まちづくりに関わることで社会貢献を行い自ら楽しみながら生きがいをもっておもてなしを行っていること。団体の活動としては、 ① もてなしドーム周辺の美化清掃活動 ② もてなしドーム地下広場を利用した湯茶のふるまい ③ もてなしドームへ来訪された方々に金沢駅周辺の道案内 ④ 賑わいイベントの企画 ⑤ その他、もてなしドームで行われるイベントや金沢市のイベントのお手伝い等
参考元	北陸新幹線（石川県）、金沢駅にぎわい.com



事 例	指宿市観光協会の取り組み（鹿児島県指宿市） 【実施主体：鹿児島県指宿市】
内 容	【指宿おもてなしステーション】 ● 九州旅客鉄道株式会社と指宿市がおもてなしの活動拠点施設として、『指宿おもてなしステーション』を整備。鹿児島中央駅と指宿駅を結ぶ観光特急列車「指宿のたまて箱」に市民やボランティア組織による「いぶたまに手を振ろう」という取り組みが行われている。「いぶたまおもてなし隊」や「指宿まるごと観光ガイド」が中心となり、「おもてなし日本一」を合言葉に活動が広がり、手の振り合いにより多くのお客様をお迎えしている。
参考元	いぶすき観光ネット HP



取組7 インバウンド（訪日外国人観光客）受入れ体制の整備

事 例	歴史的街並みを活かしたインバウンド客のおもてなし拠点づくりによる集客拡大 （岐阜県高山市） 【実施主体：岐阜県高山市】
内 容	● 歴史的伝統的な街並み景観を官民が連携して長年に渡り保存してきたことや、海外への積極的なプロモーションにより、外国人観光客が急増。高山祭りのユネスコ無形文化遺産登録により更なる拡大を目指す。 ● 外国人観光客へのおもてなしを柱に、観光 DMO づくりを官民連携して推進しつつ、ハード面の拠点施設整備や、ソフト面での通訳案内士の育成、中部北陸を結ぶ広域観光ルート「昇龍道」等の広域連携等を展開。 【外国人対応おもてなし拠点施設の整備】 ● 外国人観光客の集客拡大を目指し、(株)まちづくり飛騨高山により、観光客同士の交流の場として、地産地消のグルメ商店街となる小規模店舗複合拠点を整備（H29 年 4 月開業）。 【構造改革特区制度の活用による通訳案内士の育成】 飛騨地域（高山市等 4 市村）には、国家資格の通訳案内士が 12 人（高山市 7 人）、ボランティア通訳が 141 人（高山市延べ 125 人）いるが、年間 36 万人の外国人観光客に対して不足。 特区制度を活用し、高山市等が行う研修修了者に地域限定特例通訳案内士の資格を付与する特例により、地域の歴史文化、地域産品等を紹介する人材を育成。（目標：英語 100 人、中国語 40 人）
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ 100」（内閣府地方創生推進事務局）



事 例	「指さし会話シート」でショッピングを快適に（東京都） 【実施主体：一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会】
内 容	● ショッピングを通してより多くの訪日外国人観光客を迎えるのを目的に、平成 25 年 9 月には一般社団法人ジャパンショッピングツーリズム協会が設立された。同協会は、各地の小売店から外国人客への対応が難しいとの声を受け、英語・韓国語・中国語（簡体字・繁体字）に対応する「汎用指さし会話集」を作成。旅行者から買い物の際に出るであろう質問や要望、会計時のやりとりなどを想定し、外国語が得意でなくても対応できるよう工夫し、これを活用した小売店から役に立ったとの声が届いた。今後、業種別に対応するなど詳細なものに更新し販売する。 ● 同協会は会員向けのダウンロード集で「汎用指さし会話集」をアップしたところ、1 週間で 167 件のダウンロードがあった。改正日の 10 月 1 日には、店頭での免税手続きに際したやりとりを想定した「免税指さし会話シート」をアップ。英語版と中国語版でダウンロードできるようにし、免税版ではそれぞれ同協会のイメージキャラクターのハローキティバージョンも作成。2 日間で計 4 種類のダウンロード数は 460 件に達した。11 月中には、韓国語・台湾語・タイ語版を追加し、店頭支援ツールの充実を図る。
参考元	東京都オリンピック・パラリンピック準備局 多言語対応協議会ポータルサイト



事 例	富士山宝永火口トレッキングガイド ～学術的な情報や登山者のルール・マナー等を紹介した日英2ヵ国語のガイドブック作成、森林インストラクターの資格を有するトレッキングガイド組織の構築、市内外の観光関係者にガイドブックを送付しPR～（静岡県富士市・富士宮市） 【実施主体：富土地域観光振興協議会】
内 容	【団体ツアー受入実施までの経過】 ●富士山頂登山は、一般の方は登山シーズンの7月中旬～9月上旬の2ヵ月間しか行くことができない。しかも一定の体力と十分な装備が必要となる。 しかし、富士宮口五合目を発着とした宝永火口トレッキングは6月から10月までの5ヵ月間楽しむことができる。また、宝永火口は富士山頂まで行く体力に自信のない人や小さな子供でも十分楽しめる場所である。宝永火口トレッキングは以前から行われていたが、学習的な内容が多く一般観光客向きではなかった。富士山の学術的な情報や登山者に求められるルール・マナー等も掲載した日英2ヵ国語表記のガイドブックを製作し、同行するガイドがいなくても個人で楽しめることを可能にした。 静岡県や観光協会、両市内外の観光関係者へPRしたことにより多くの反響があり、より利便性を高めるため森林インストラクターの有資格者組織をガイドとして、団体受入を開始する仕組みを構築した。
参考元	日本を元気にする地域の力 観光地域づくり事例集 2015 （国土交通省・観光庁）



基本方針3 戦略的な観光情報の発信

取組1 積極的な観光宣伝・PR・情報発信

事 例	セールスプロモーション強化による観光誘致等の実現（神奈川県三浦市） 【実施主体：三浦市経済振興部営業開発課】
内 容	●平成18年度に市長より、「株式会社三浦市」のコンセプトが打ち出され、「みうらスタイル・プロジェクト事業」を展開。本事業は、「オーライ！ニッポンフレンドシップ賞」を受賞。 ●明治大学との官学連携、千代田区との連携による「三浦市東京支店事業」、NPO法人みうら映画舎との官民協働による「フィルム・コミッション推進事業」、旅行代理店とタイアップした観光誘客宣伝事業や教育旅行の誘致など、従来型の自治体では模倣できない施策として、全国から注目されている。 ●特に「フィルム・コミッション推進事業」では、平成16年から平成19年にかけて撮影オフア一件数1167件、撮影件数は513件あった。また三浦市のシティセールスでは政策着手時の平成15年度に比べ平成20年度には観光入込客数が14%も増加した。
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集（内閣府沖縄総合事務局）



事例	エリアマネジメントによる地域の賑わいの創出 ～地域の協賛による地域内交通サービス、都心のアート・空間・歴史を感じるウォークガイド、地域のファンを拡大するご当地検定、有識者とまちづくりを考えるサロン～ (東京都千代田区) 【実施主体：NPO 法人大丸有エリアマネジメント協会（愛称：リガーレ）】
内容	【大丸有地区のファンを拡大するソフトなまちづくり】 ●リガーレでは、「環境」「交流」「活性化」を3つの柱として、様々な活動を行っている。「丸の内シャトル」は、地権者を中心とした協賛者によって平成15年8月から運行を開始した地区内無料巡回バスで、年間総乗車人員は60万人を超える。「丸の内ウォークガイド」は、ボランティアガイドによるガイドツアーで、週3回の定期コースのほか、希望に合わせたアレンジコースも実施している。街のいたるところに置かれた美術作品や居心地の良い広場などを紹介し、年間延べ700名以上の参加がある。「丸の内検定」は、当地区の様々な魅力（歴史、建築物、美術作品、環境活動等）について理解を深めてもらい、多くの方にファンになってもらいたいという願いを込めて、丸の内検定というご当地検定を平成20年から年1回実施している。毎年約200名の受験がある。また、平成23年に丸の内検定のイメージキャラクターとして誕生した「マルケン」は、多くの方に親しまれ、現在ではリガーレのメインキャラクターとして様々な場面で活躍している。「まちづくりサロン」は、有識者や街のステークホルダーと一緒にまちづくりを考えるサロンで、平成26年度に3回開催した「都心型 MICE サロン」では、東京の国際競争力強化に向けて、道路や広場といった公的空間を含め当地区の空間をどのように活用していくか議論した。
参考元	日本を元気にする地域の力 観光地域づくり事例集 2015（国土交通省・観光庁）



事例	あまちゃんブランドを活かし、まちなかの道の駅を核とした賑わいの復興 (岩手県久慈市) 【実施主体：岩手県久慈市】
内容	【朝ドラ「あまちゃん」を契機に「北限の海女」ブランドを活かした集客拡大】 ●朝ドラ「あまちゃん」(H25年度)のロケ地となり「北限の海女」のブランドイメージが浸透したことをきっかけに、あまちゃん人気を活かした観光商品・ビジネスを実施。 ●市が市街地の空き店舗を「あまちゃんハウス」に整備(H26年度)。ドラマに使用した小道具展示やグッズ販売を実施し、集客を拡大。 ●駅、やませ土風館、あまちゃんハウス周辺の空き店舗シャッターにあまちゃんの絵を描き観光スポットを創出。商工会議所の呼びかけに漫画家等が応じて実現。絵は毎年追加。 ●市により、震災で全壊した「小袖海女センター」をロケ地に再整備。展示コーナー、地元海女の素潜り実演(7月～9月)、ドラマ内のカフェをモチーフにした「海女カフェ」等により、集客を拡大。 ●観光物産協会が海女の後継者育成をかねて地元高校生を対象に設立(H17年度)した「海女クラブ」により、海女センターや土風館でのイベント(素潜り実演、海女カフェ等)等に参加。
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」(内閣府地方創生推進事務局)



取組2 教育旅行の積極的誘致

事例	自然を活用した教育旅行を誘致（新潟県阿賀町） 【実施主体：NPO 法人にいがた奥阿賀ネットワーク】
内容	● 奥阿賀では学校・団体向けの体験教育旅行を行っている。ワラ細工体験、稲刈り体験など、ともしれば忘れてしまいがちな大自然の温かさと人間の大きな智慧に触れられる、大人気の体験教育となっている。 ● 奥阿賀の自然の豊かさと人々の温かさを体験することのできる農家民宿やどぶろく等の特産品開発などにより、交流人口の拡大を図り、滞在型の都市農村交流事業を展開している。  
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集（内閣府沖縄総合事務局）

取組3 インバウンド（訪日外国人観光客）の誘致促進

事例	日光東照宮新宝物館（栃木県日光市） 【実施主体：栃木県日光市】
内容	【経緯・取組】 ● 昭和 43 年に開館した旧宝物館の老朽化への対応、東照宮四百年式年大祭を記念して、平成 27 年に新宝物館が建立された。日光東照宮には年間 20 ～ 30 万人の外国人旅行者が訪れるため、外国人を迎え入れるのにふさわしい施設を目指して設計された。訪れた旅行者がより東照宮のことを理解できるよう、神社の由緒、建造物の修理の解説、関連文化財、徳川家康の生涯などについて、解説板、年表、映像コンテンツ等の多様な媒体を用いて解説している。また、そのほとんどが日英併記となっている。英語の解説がなかった旧宝物館では、入館者数は年間 5 万人程度であったが、解説整備後の新宝物館には開館から 9 か月で約 16 万人が訪れるなど、入館者数は大幅に増大した。 【解説の工夫（解説板）】 ● 日本の歴史を知らない外国人にも理解できるよう、英語解説では日本語解説以上に詳しく記載。例えば、日本語の解説では「徳川家康公が関ヶ原の戦いの際に着用されたと伝えられる。」と関ヶ原の戦いについて特段の説明はないが、英語の解説では、「in 1600, after which Japan was unified under the Tokugawa shogunate.」と付け加えられ、関ヶ原の戦い後に家康が天下統一したこと（関ヶ原の戦いは「天下分け目」の重要な戦いであったこと）が分かるよう配慮されている。 【多様な解説】 ● 東照宮にまつわる知識・情報を発信するため、多様な媒体を用いて解説が行われている。    
参考元	文化財の英語解説のあり方について ～訪日外国人旅行者に文化財の魅力を伝えるための視点～（国土交通省・観光庁）

事 例	日本の世界文化遺産の真の味わいを外国人観光客にも。背景を知って理解を深めてもらうための和歌山県田辺市の取り組み（和歌山県田辺市） 【実施主体：一般社団法人 田辺市熊野ツーリズムビューロー】
内 容	● 和歌山県を中心に三重県、奈良県に広がる「熊野古道」は、古来から数多くの日本人の信仰を集めてきた、熊野三山（熊野本宮大社、熊野速玉大社、熊野那智大社、青岸渡寺）を巡る参詣道で、平成 16 年 7 月に、ユネスコ世界遺産（文化遺産における「遺跡および文化的景観」）に登録されたことにより、海外からも多くの観光客が訪れるようになった。 - これらの観光客に、熊野の魅力と歴史的背景を知ってもらおうと、和歌山県田辺市および同市観光協会を中心に構成される「田辺市熊野ツーリズムビューロー」では、様々な取組を行っている。観光看板の表示や色を統一して英語を併記、音声ガイドも設置し、日／英対応のインターネット予約システムでも、団体ツアー旅行から少人数の個人旅行客へと変化する流れに対応するために多彩なオプションプランを用意している。また、ホームページは英語、フランス語、スペイン語、中国語（繁体）、韓国語の 5 言語に翻訳している。 【「何も知らない人にどう伝えるべきか」】 ● 例えば単語の扱いにおいては、熊野古道の歴史を紹介する際に、単に「江戸時代」と書くだけでなく、「Edoperiod (1603-1868)」と西暦を併記したり、神社の「神」を「God」とするのではなく「Kami」と紹介し、更に「Japan's indigeneous deities(日本の土着の神々)」と解説を加えるなどしている。また、日本語では熊野古道のそれぞれの道や観光ポイント各所の案内をしているページでも、英語版ではまず「熊野三山 (Kumano Grand Shrines) とは」という概要説明の章を設けるといった、日本の文化や歴史に初めて触れる人にも分かりやすい構成になっている。 ● 観光ガイド団体「Mi-Kumano(ミ・クマノ)」でも、通訳案内士の資格を持ったガイドスタッフが、歴史や文化財について外国人にも説明できるよう、講習会などで勉強をしたり、日本語と英語両方でガイドをする「バイリンガルガイド」コースで、外国人だけでなく日本人にも、英語で日本の文化をどう表現するのかを学んで貰う等、地域に密着した取組を展開している。
参考元	東京都オリンピック・パラリンピック準備局 多言語対応協議会ポータルサイト



基本方針4 観光振興推進体制の整備

取組1 観光振興推進組織の整備・強化

事例	着地型旅行推進に向けた総合支援窓口の設置 （静岡県伊東市） 【実施主体：一般社団法人 伊東観光協会】	
内容	● 的確なターゲティングを行った上での、“健康”や“おもてなし”等、多様なニーズへの対応と、季節毎・地域毎の観光資源の演出が、顧客から評価されている。定期的に顧客満足度調査を行い、地域の取り組みに反映させている。 ● 地域内の運輸事業者と連携し、着地型旅行商品を造成・販売している。 ● 地域内のコーディネートや商品開発、情報発信、人材育成等を総合的に実施する組織の設立を検討している。	
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集（内閣府沖縄総合事務局）	

取組2 観光事業者間の連携強化

事例	商店街やまちづくり会社、女性団体等の多様な主体の連携によるまちなか再生 （鹿児島県鹿屋市） 【実施主体：鹿児島県鹿屋市】	
内容	● 空き店舗が増加する北田・大手町商店街において、地元有志と商店街等が連携し、期間限定の多様な店舗が集まるデザインマーケット等の開催により賑わいが復活。空き店舗の活用策を提案するリノベーションスクールの開催や、女性団体を中心となった市民協働ショップの運営等を通じ、継続的な賑わいづくりにつながっている。官民が連携した戦略づくりとその実行により、更なるまちなかの再生を目指す。 【地元有志と商店街が連携した集客イベントの開催】 ● 高齢化や人手不足により空き店舗が増加する中心市街地の商店街において、地元有志と商店街が連携し、空き店舗等を舞台に期間限定で市内外の多数の店舗が集まるイベント「BARAIRO フェスティバルかのや」を開催（H20年～）。 ● このことをきっかけに、商店街主体の活動も増え、若者がまちづくりに関わり始め、街の空気感が変化。 ＜市の総合戦略における関連 KPI ＞ ● 空き店舗活用数2件（H26年）→10件（H31年） ● 商店街の有志や商工会議所、㈱まちづくり鹿屋、行政により設立された「街のにぎわいづくり協議会」（H24年設立、事務局：鹿屋市商工振興課）により、京町エリアの再生に向けて、一晩限りの屋台村が出現する「ぶらり京町横丁」の開催や、協賛金を集めて実施しているイルミネーションの設置、未来を担う人材の育成、商店街の個店力支援等を実施。	 
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ100」（内閣府地方創生推進事務局）	

取組3 観光統計の整理

事 例	水辺の風景と歴史的資源を観光振興に活用（島根県松江市） 【実施主体：NPO 法人松江ツーリズム研究会】
内 容	● 地域貢献を目的に、地域での協力が得られやすく設立も容易な NPO 法人を設立。工夫を凝らしたアンケートの実施や、効率的な情報発信も念頭に置いた商品作りを推進している。 【「ニーズにあった商品化」「プログラムの多様化」「ガイドの育成」】 ● 地域の歴史・文化・自然等を念頭に置いた話題性があり PR しやすい商品づくり。ツアーのアンケートによってお客様の声を反映して再構築。地元町歩きガイド育成の為に資格制度やガイドスキルアップ事業の実施。 
参考元	滞在交流型観光の活性化に取り組む先進地事例集（内閣府沖縄総合事務局）

事 例	国内外からの観光客拡大や MICE 誘致による震災からの復興の加速（熊本県熊本市） 【実施主体：熊本県熊本市】
内 容	● 平成 28 年 4 月に発生した熊本地震からの早期復旧・復興に向け、甚大な被害を受けた市のシンボル熊本城の復旧していく姿を、新たな観光資源として活用し、国内外に向けて広く発信。 ● 民間主導による観光 DMC によるデータサイエンスを活用した観光マーケティング活動等を通じた観光客の拡大や、会議・イベント等の誘致を推進し、地域経済の復興を図る。 【国内外からの観光客誘致】 ● 平成 28 年 12 月には、地域金融機関（肥後銀行）が中心となり、県と連携して、熊本を「食」×「観光資産」＝「旅」で世界にマーケティングする「株式会社くまもと DMC」を設立。日本初のビッグデータを活用した地域観光経営とマーケティング等により、市場調査や地域ブランドの企画・立案、旅行商品企画開発・販売等の推進を図る。 
参考元	稼げるまちづくり取組事例集「地域のチャレンジ 100」（内閣府地方創生推進事務局）





発行 平成 30 年 3 月

編集 **蔵王町 農林観光課**

〒989-0892 宮城県刈田郡蔵王町大字円田字西浦北 10

電話 : 0224-33-2215

E-mail : kanko@town.zao.miyagi.jp

H P : <http://www.town.zao.miyagi.jp/kankou/>